

# 2019年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会 スプリント、ロング・ディスタンス競技部門 報告書



- 開催日 2019年11月9日（土）～10日（日）  
・11月9日（土） スプリント競技部門  
・11月10日（日） ロング・ディスタンス競技部門
- 開催地 岐阜県中津川市
- 会場 中津川公園（スプリント競技）、  
はなの湖総合グラウンド（ロング・ディスタンス競技）
- 主催 日本学生オリエンテーリング連盟
- 主管 2019年度日本学生オリエンテーリング選手権大会  
スプリント、ロング・ディスタンス競技部門実行委員会
- 後援 中津川市、中津川市教育委員会、公益社団法人 日本オリエンテーリング協会、  
岐阜県オリエンテーリング協会
- 協賛 株式会社日本旅行、中津川温泉クアリゾート湯舟沢、株式会社ニチレイ、  
新富士バーナー株式会社、株式会社フォルテ、  
有限会社ヤマカワオーエンタープライズ、栗きんとん すや

## 目次

## ご挨拶

Page 2 - 3

## 1

## 公式成績

Page 4 - 5

- 1.1 スプリント競技部門----- 4
- 1.2 ロング・ディスタンス競技部門----- 5

## 2

## 入賞者コメント

Page 6 - 13

- 2.1 スプリント競技部門 男子選手権----- 6
- 2.2 スプリント競技部門 女子選手権----- 8
- 2.3 ロング・ディスタンス競技部門  
男子選手権----- 10
- 2.4 ロング・ディスタンス競技部門  
女子選手権----- 12

## 3

## 競技結果と解説

Page 14 - 35

- 3.1 スプリント競技部門----- 14
- 3.2 ロング・ディスタンス競技部門----- 27
- 3.3 調査依頼と提訴の回答----- 31

## 4

## 大会運営報告

Page 36 - 46

- 4.1 大会企画の経緯----- 36
- 4.2 活動実績----- 36
- 4.3 競技面の準備経緯  
(スプリント競技部門) ----- 39
- 4.4 競技面の準備経緯  
(ロング・ディスタンス競技部門) 41
- 4.5 会計----- 44

## 5

## イベント・アドバイザー報告

Page 47 - 54

- 5.1 はじめに----- 47
- 5.2 業務実施報告----- 47
- 5.3 本大会において見られた課題----- 49
- 5.4 終わりに----- 54

## 6

## 将来への提言

Page 55 - 58

- 6.1 スプリント競技部門----- 55
- 6.2 ロング・ディスタンス競技部門----- 55
- 6.3 運営組織、人事、会計及び運営全般 55
- 6.4 日本学連（理事会・技術委員会・幹  
事会）に向けた提言----- 56
- 6.5 加盟校に向けた提言、お願い----- 56
- 6.6 ガイドライン・仕組み等の制定、再  
構築が必要な時期----- 57
- 6.7 人員不足への対応策について----- 58

## 7

## 選手権の部スタートリスト

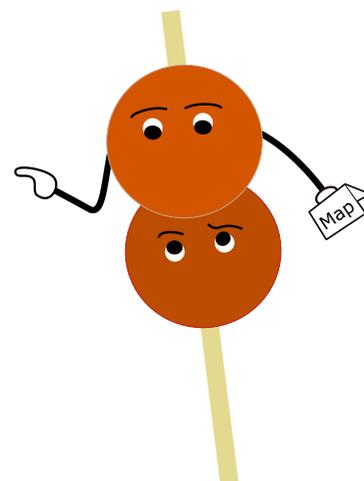
Page 59 - 60

- 7.1 スプリント競技部門----- 59
- 7.2 ロング・ディスタンス競技部門----- 60

## 8

## 大会役員一覧

Page 61



# ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長  
河合 利幸



きりと冷たい空気も日が差すと暖かみを感じる、そんなオリエンテーリング日和の2日間でした。入賞した選手の皆さん、おめでとうございます。

選手権スプリントでは、スタジアムの立体構造を利用する新しい試みがなされました。また、階段を使うか、スロープを使うかなどの判断を迫られたりと工夫が凝らされたものでした。近接したコントロールに惑わされたと思われる失格が男子で多かったことは残念でしたが、観戦のしがいのあるレースでした。

男子選手権ロングでは、終盤のコントロールで設置ミスがあったものの、不成立という最悪の事態を避けられたことは幸いでした。男女とも、ロングという長丁場のレースで優勝争いが秒差という白熱した闘いには、応援する方もさぞ力が入ったことでしょう。特に女子選手権ロングでは、終わってみれば40秒間に上位4人がひしめくという大接戦でした。

ロングの会場にいた皆さんは気づかれたと思いますが、今回からプロのカメラマンが入って、ドローンも使って動画撮影が行われました。これは、日本学連がJOAを介して加入した大学スポーツ協会(UNIVAS)が提供するサービスのひとつで、その結果はUNIVASのWebサイトで見ることができます。さすがプロという仕上がりになっていますので、オリエンテーリングの認知度の向上や新人獲得に是非活用していただければと思います。

ここ5,6年ほどの間、ロングの出走者数は800人前後で推移していますが、油断すればかつてのようにあっという間に落ち込んでしまうことでしょう。スプリントも定着しつつありますが、課題はあります。インカレを継続して開催していくためにまず必要なことは、学生の皆さんの「熱意」です。今回のインカレで1年生の皆さんにも感じてもらえたのであれば幸いです。

最後になりましたが、多忙な日々の合間を縫って準備を進めていただいた実行委員会とその関係者の皆さんには、改めて感謝いたします。ご苦勞様でした。また、地元関係者の皆様には、様々な面で多大なるご支援ご協力をいただき、本当にありがとうございました。主催者の日本学連を代表して、厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長  
藤本 拓也



最近の秋インカレは寒さが日に日に厳しくなるような時期に開催されることが多いですが、それでも会場にいる私はいつも寒さを忘れてしまうほどの熱気を感じます。今年も11月開催でしたが例年に負けず熱いインカレだったと思います。

今年のインカレでも新しい要素がありました。特にスプリント競技では、昨年の駒ヶ根インカレで競技場を貸し切って行うという予告があったから非常にワクワクして待っていた人が多いことだと思います。実際、選手権クラスのコースは大半が会場から見える場所を走るという、まさに「見せるオリエンテーリング」そのものでした。インカレスプリントは今回で5度目の節目を迎えました。他の種目と比べると歴史が浅いですが、4種目のうちの1種目としての大きな地位が定着していると思います。ロング競技でのGPSトラッキングをはじめとした演出面も、年々進化しているのを感じます。

その一方で、学生たち・運営者の皆さんのインカレにかける思いの強さは昔からほとんど不変のものだと思います。インカレは決して一部の人だけで成り立っているのではなく、その場にいる全員によって支えられています。学生たちのインカレにかける大きな熱量に応える形で、運営者の皆さんも工夫を凝らして毎年素晴らしい舞台を用意してくださり、その舞台でまた熱い戦いが繰り広げられます。この良い循環がずっと続いてきたからこそ、インカレは幾度もの開催の危機を乗り越えながら学生オリエンテーリング界で不動の地位を保ってきたのだと思います。今後もこの循環をみんなで支えていきましょう。

最後になりましたが、今大会の開催にあたってご尽力いただいた実行委員会の皆様、ご協力いただいた地元の方々をはじめとして、関係するすべての皆様に深く御礼申し上げます。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

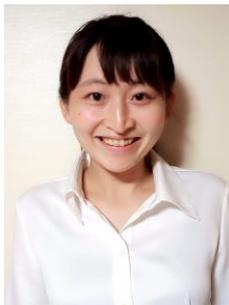
イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

2019年度日本学生オリエンテーリング選手権大会  
スプリント、ロング・ディスタンス競技部門実行委員長  
権名 麻美



今年の中津川スプリント、ロングは11月に行ったこともあり、競技のしやすい天候に恵まれた中での開催となりました。日頃の成果を発揮され、選手権を勝ち取った選手に対し敬意を示します。本当におめでとうございました。今回の大会が参加者の皆様の心に思い出として残るものであったならば、運営者の一人として嬉しい限りです。

しかし、大会としての反省が残る部分がありました。ロング競技の男子選手権においては、1か所の設置の不備が発生しました。また、スプリントでは、様々な工夫を行いましたが、男子選手権においては、多数の失格者が発生しました。

ロング競技の設置の不備につきましては、競技性を保つことができず大変申し訳なく思っております。オリエンテーリングの競技中にもミスをするように、自分の意志とは反して、人はミスをおこす可能性があります。そのミスをいかに組織的、システムの防ぐことができるか考える必要があります。現在のインカレの運営方法は大会ごとの実行委員会に一任されており、引継ぎ資料等はありませんが、インカレ競技の安定的な成立に寄与する基準などはございません。今後、競技に影響する事案を防ぐためにも、そのような基準の作成が必要になると思います。

また、今回のスプリント選手権は限られた狭い範囲での競技となり、スプリントの選手権者を決めるのにふさわしいコースとするために様々な工夫を行った結果、失格者も増え、かなり運営負荷も高い運営となりました。しかし、インカレスプリントは今年第5回目を迎え、たくさんの学生の皆様、併設大会参加者の皆様が観戦、応援に訪れてくださり、お蔭様で大変盛り上がりました。「スプリント競技」がインカレの一種目として競技者の方に定着してきた証かと思えます。今後もこのようにインカレスプリントが継続、発展をしていくためには、競技関係者以外のステークホルダーの方々とも良好な関係づくりに努め、テレインの選定時より選択肢に幅のある仕組みを整えていくこと、また発生してしまった事例を今後にかさず仕組みづくりを行う必要があります。

オリエンテーリングは、WMG2021の公式競技としても採用されており、スキー部門は世界学生選手権の競技にも選定されています。ますます日本で、世界で注目を浴びてきており、これから将来性がある競技です。そのようなオリエンテーリングのインカレを今後も継続的に、安定的に、発展的に開催していくには、体制の再構築、仕組みづくりが重要だと考えます。

最後になりましたが、本大会を受け入れてくださった地

元の皆様、ご参加くださった参加者の皆様、自らの生活を顧みずご尽力してくださった運営者の皆様、本大会を開催するにあたり温かいご支援をいただきました日本旅行株式会社様をはじめとする協賛企業の皆様に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 1

## 公式成績

## 1.1 スプリント競技部門

ME 参加人数 64 名

順位	氏名	記録	学校・学年
1	小牧 弘季	14:42.1	筑波大学 3
2	大石 洋輔	15:42.5	早稲田大学 3
3	川島 聖也	15:44.6	神戸大学 4
4	岩井 龍之介	15:59.9	京都大学 4
5	椎名 晃文	16:24.1	東京大学 3
6	住吉 将英	16:31.3	名古屋大学 3
7	小林 尚暉	16:52.4	東京大学 2
8	山田 基生	16:54.2	東北大学 3
9	谷野 文史	17:09.4	筑波大学 3
10	七五三 碧	17:12.9	茨城大学 4
11	長岡 凌生	17:13.3	東北大学 4
12	中嶋 律起	17:14.4	横浜国立大学 3
13	祖父江 有祐	17:46.5	筑波大学 1
14	宮嶋 哲矢	17:49.8	千葉大学 3
15	宮川 靖弥	17:52.0	東京工業大学 2
16	吉田 薪史	17:59.1	大阪大学 3
17	片岡 佑太	18:02.3	大阪大学 3
18	長谷川 望	18:04.9	早稲田大学 4
19	池田 匠	18:07.1	早稲田大学 2
20	外石 裕太郎	18:08.8	新潟大学 4
21	石田 晴輝	18:22.3	東京大学 4
22	伊地知 淳	18:26.6	千葉大学 2
23	菅原 晨太郎	18:33.7	東北大学 4
24	園部 駿太	18:36.5	東北大学 3
25	滝沢 壮太	18:39.1	新潟大学 3
26	棚橋 一樹	18:40.0	名古屋大学 3
27	藤井 悠輝	19:13.0	名古屋大学 2
28	川口 真司	19:16.8	名古屋大学 4
29	茂原 瑞基	19:21.8	慶應義塾大学 4
30	石川 創也	19:26.3	名古屋大学 3
31	前川 光鷹	19:33.3	東京理科大学 2
32	谷平 光一	19:46.2	名古屋大学 3

順位	氏名	記録	学校・学年
33	西田 直人	19:55.5	茨城大学 2
34	岩垣 和也	20:06.6	名古屋大学 4
35	山内 優太	20:29.2	広島大学 3
36	下江 健史	20:31.1	広島大学 4
37	伊藤 元春	25:22.8	東京大学 2
	桃井 陽佑	DISQ	慶應義塾大学 4
	萱尾 澄人	DISQ	大阪大学 2
	名雪 青葉	DISQ	筑波大学 2
	太田 知也	DISQ	京都大学 3
	保刈 優	DISQ	東北大学 3
	江野 弘太郎	DISQ	慶應義塾大学 3
	石渡 望	DISQ	東北大学 3
	小寺 義伸	DISQ	東京工業大学 3
	阿部 遼太郎	DISQ	横浜市立大学 2
	嶋崎 涉	DISQ	東北大学 3
	豊田 俊哉	DISQ	神戸大学 2
	根本 啓介	DISQ	筑波大学 1
	三浦 一将	DISQ	名古屋大学 4
	大野 絢平	DISQ	京都大学 4
	上村 太城	DISQ	慶應義塾大学 4
	大橋 陽樹	DISQ	東京大学 4
	南 史玖	DISQ	名古屋大学 3
	朝間 玲羽	DISQ	東京大学 2
	三家本 雄貴	DNS	広島大学 3
	古池 将樹	DISQ	京都大学 3
	金子 哲士	DISQ	東北大学 3
	北見 匠	DISQ	東北大学 4
	青芳 龍	DISQ	東北大学 4
	倉田 瞭一	DISQ	東京工業大学 2
	櫻市 雅也	DISQ	東京大学 4
	櫻井 一樹	DISQ	東京工業大学 3
	清水 俊祐	DISQ	慶應義塾大学 4

WE 参加人数 36 名

順位	氏名	記録	学校・学年
1	伊部 琴美	15:00.9	名古屋大学 3
2	増澤 すず	15:26.3	筑波大学 4
3	青代 香菜子	16:18.1	東北大学 4
4	香取 瑞穂	16:19.5	立教大学 3
5	世良 史佳	16:44.7	立教大学 3
6	出田 涼子	17:01.8	大阪大学 4
7	高橋 利奈	17:07.6	日本女子大学 4
8	塚越 真悠子	17:24.2	大阪大学 4
9	山根 萌加	17:30.2	京都大学 2
10	阿部 悠	17:39.1	実践女子大学 2
11	河野 珠里亜	17:39.3	新潟大学 3
12	宮本 和奏	18:03.2	筑波大学 3
13	清野 幸	18:08.0	横浜国立大学 3
14	小竹 佳穂	18:10.7	筑波大学 4
15	小林 祐子	18:14.1	東北大学 3
16	片岡 茅悠	18:22.0	東京大学 3
17	河村 優花	18:33.3	名古屋大学 4
18	渡邊 裕子	18:37.6	岩手大学 3

順位	氏名	記録	学校・学年
19	永山 尚佳	18:44.0	神戸大学 2
20	進藤 緑里	19:23.7	岩手大学 3
21	篠塚 みずき	19:31.1	横浜市立大学 4
22	菊池 美結	19:38.0	岩手大学 2
23	横山 由奈	19:57.1	東北大学 2
24	神戸 麻衣	19:59.1	新潟大学 3
25	八木橋 まい	20:10.5	東北大学 3
26	鈴木 日菜	20:32.7	実践女子大学 2
27	石坪 夕奈	20:33.6	東京農工大学 4
28	諏訪 夏海	20:36.3	東北大学 4
29	齋藤 百花	21:11.6	広島大学 4
30	久保田 遥	21:31.6	東北大学 1
31	木本 円花	22:17.0	北海道大学 4
	伊東 加織	DISQ	東北大学 4
	多田 明加	DISQ	金沢大学 2
	和波 明日香	DISQ	椋山女子園大学 3
	山賀 千尋	DISQ	大阪大学 2
	中野 真優	DISQ	椋山女子園大学 3

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザ一報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

ME 参加人数 62 名

順位	氏名	記録	学校・学年
1	大橋 陽樹	1:04:40	東京大学 4
2	小牧 弘季	1:04:52	筑波大学 3
3	種市 雅也	1:09:02	東京大学 4
4	北見 匠	1:09:46	東北大学 4
5	椎名 晃丈	1:14:53	東京大学 3
6	岩井 龍之介	1:14:57	京都大学 4
7	朝間 玲羽	1:15:45	東京大学 2
8	伊藤 光祐	1:15:51	東北大学 4
9	大石 洋輔	1:16:13	早稲田大学 3
10	長谷川 望	1:17:46	早稲田大学 4
11	長岡 凌生	1:17:56	東北大学 4
12	桃井 陽佑	1:17:59	慶應義塾大学 4
13	清水 俊祐	1:18:17	慶應義塾大学 4
14	太田 知也	1:19:23	京都大学 3
15	和佐田 祥太朗	1:19:31	京都大学 2
15	岩垣 和也	1:19:31	名古屋大学 4
17	伊藤 元春	1:20:14	東京大学 2
18	唐木 朋也	1:22:19	東北大学 3
19	谷野 文史	1:22:57	筑波大学 3
20	川口 真司	1:23:03	名古屋大学 4
21	森川 周	1:23:23	東京大学 3
22	西下 遼介	1:23:28	慶應義塾大学 4
23	金子 哲士	1:23:34	東北大学 3
24	石田 晴輝	1:23:53	東京大学 4
25	小林 尚暉	1:24:07	東京大学 2
26	宮嶋 哲矢	1:24:41	千葉大学 3
27	南 吏坎	1:25:19	名古屋大学 3
28	園部 駿太	1:25:35	東北大学 3
29	三浦 一将	1:25:39	名古屋大学 4
30	鳥居 洸太	1:25:43	東北大学 4
31	古池 将樹	1:25:53	京都大学 3

順位	氏名	記録	学校・学年
32	江野 弘太郎	1:26:32	慶應義塾大学 3
33	溝井 翔太	1:26:50	茨城大学 2
34	滝沢 壮太	1:27:05	新潟大学 3
35	棚橋 一樹	1:27:21	名古屋大学 3
36	森田 夏水	1:27:32	早稲田大学 4
37	渡辺 鷹志	1:28:47	慶應義塾大学 4
38	櫻井 一樹	1:29:00	東京工業大学 3
39	祖父江 有祐	1:29:12	筑波大学 1
40	上村 太城	1:29:46	慶應義塾大学 4
41	伊藤 良介	1:30:02	京都大学 2
42	田中 琉偉	1:30:13	法政大学 2
43	清水 嘉人	1:31:17	北海道大学 2
44	丸山 ゆう	1:31:36	京都大学 3
45	比企野 純一	1:32:20	東京大学 4
46	石崎 建	1:32:42	金沢大学 3
47	津田 卓磨	1:33:11	横浜国立大学 3
48	伊藤 頌太	1:34:38	慶應義塾大学 2
49	谷口 恵祐	1:34:39	東北大学 4
50	川島 聖也	1:35:00	神戸大学 4
51	大野 絢平	1:35:14	京都大学 4
52	菅沼 友仁	1:36:52	茨城大学 3
53	茂原 瑞基	1:39:33	慶應義塾大学 4
54	豊田 健登	1:39:55	茨城大学 3
55	七五三 碧	1:40:03	茨城大学 4
56	片岡 佑太	1:41:49	大阪大学 3
57	名雪 青葉	1:42:34	筑波大学 2
58	山内 優太	1:43:03	広島大学 3
59	吉田 新史	1:49:13	大阪大学 3
60	小池 棕介	1:53:13	京都大学 4
61	藤原 真吾	1:54:44	関東学院大学 4
	桃本 一輝	DISQ	大阪大学 3

WE 参加人数 33 名

順位	氏名	記録	学校・学年
1	宮本 和奏	1:13:19	筑波大学 3
2	伊部 琴美	1:13:28	名古屋大学 3
3	小林 祐子	1:13:58	東北大学 3
4	香取 瑞穂	1:13:59	立教大学 3
5	増澤 すず	1:14:32	筑波大学 4
6	世良 史佳	1:15:44	立教大学 3
7	阿部 悠	1:20:16	実践女子大学 2
8	永山 尚佳	1:21:03	神戸大学 2
9	青代 香菜子	1:23:27	東北大学 4
10	山根 萌加	1:25:51	京都大学 2
11	小竹 佳穂	1:26:54	筑波大学 4
12	河村 優花	1:27:25	名古屋大学 4
13	高橋 利奈	1:31:23	日本女子大学 4
14	五十嵐 羽奏	1:31:39	名古屋大学 2
15	清野 幸	1:32:23	横浜国立大学 3
16	岩崎 佑美	1:33:37	慶應義塾大学 2
17	出田 涼子	1:35:39	大阪大学 4

順位	氏名	記録	学校・学年
18	富永 万由	1:36:40	早稲田大学 3
19	小林 美咲	1:37:59	十文字学園女子大学 4
20	伊東 加織	1:38:30	東北大学 4
21	河野 珠里亜	1:41:23	新潟大学 3
22	秋山 美怜	1:41:39	早稲田大学 3
23	八木橋 まい	1:42:07	東北大学 3
24	松田 千果	1:42:43	横浜市立大学 3
25	篠塚 みずき	1:44:10	横浜市立大学 4
26	須本 みずほ	1:44:39	椋山女学園大学 2
27	渡邊 裕子	1:54:38	岩手大学 3
28	古谷 直央	1:55:39	横浜市立大学 4
29	鈴木 咲希	1:58:32	千葉大学 4
	進藤 緑里	DISQ	岩手大学 3
	諏訪 夏海	DISQ	東北大学 4
	佐藤 汐子	DISQ	宮城学院女子大学 3
	和波 明日香	DISQ	椋山女学園大学 3

## 2

# 入賞者コメント

### 2.1 スプリント競技部門 男子選手権

#### 1 小牧 弘季 0:14:42.1 筑波大学

筑波の男子は弱い、そんな風に言われている中で僕はオリエンテーリングを始めました。女子選手が活躍する中、自分自身はインカレで結果を残せず悔しい思いをしてきました。いつか優勝してやろうとずっと思ってきましたが、それがスプリントで叶ったのは自分自身少し意外です。僕はスプリントが苦手であり、最初はインカレスプリントへのモチベーションも低かったです。しかしコーチの助言やスプリント大好きな部員たちからの刺激もあり、本格的に対策を始めました。スプリントはどんなコースであれフィジカルは重要だろうと思い、スピードトレに加え走行距離も以前より積み、ランニングフォームも見直しました。学内スプリントも何度も取り組みました。そして対策地図を書き上げ、予想コースを組みました。競技場内の迷路やスタンド内の通路の一部封鎖も予想の範囲内ではありました。とはいえ大会直前でも思い描くような「きれいで上手な」スプリントができるまでには至りませんでした。そういう時こそ、とレースでは「ルートを決め切ってから脱出」「次善のルートチョイス」といったシンプルな決め事を心がけました。ベストなルートチョイスやスムーズな脱出を徹底できたわけではないですが、大きなミスなく走力も発揮できたことが優勝につながったと思います。何より筑波大学の選手として勝てたことが本当に嬉しいです。レース中の応援がびっくりするくらいよく聞こえて、その中を走るの最高でした。熱を入れた対策、大学代表として走れる喜び、エキサイティングなコースとインカレの醍醐味が詰まっていました。応援していただいた皆さん、ありがとうございました。

#### 2 大石 洋輔 0:15:42.5 早稲田大学

オリエンテーリングが大好きです。競技、普段のトレ、合宿、練習会、大会運営、関東学連、界隈の人との繋がり、サウナの飲み会など、挙げればキリがありませんが、全部です。オリエンテーリングに関わっている時間が本当に大好きです。

でもやっぱり一番好きなのは競技そのものです。カッコいい先輩達、共に悩んで頑張ってくれる同期、勢いのある後輩、目標の存在である小牧と一緒にオリエンテーリングを速くなる過程が、今とても楽しいです。だからこそ、学生最高峰の舞台であるインカレで活躍することが、自分のオリエンテーリングにおける最大の目標です。今回入賞することが出来たという結果に関しては素直に嬉しいです。

話は逸れますが、自分はオリエンテーリングの競技的モチベーションを一時期見失っていました。同期や後輩がどんどん速くなっていく中、自分はずっと停滞している気がして、逃げていました。そんな自分が今頑張ることが出来ているのは、普段一緒に頑張っている OC の後輩たちの目標となれる走りを見せたかったのが大きな理由です。これからもインカレリレーの舞台で強い早稲田をみせるべく、皆で努力していきたいです。

最後にはなりますが、声を枯らして応援してくれた OC の皆、サポートして下さったオフィシャルの方々、そして素晴らしいインカレの舞台を準備して下さった実行委員会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### 3 川島 聖也 0:15:44.6 神戸大学

※これを読んで気分を害された方はすみません

この度インカレスプリント 3 位に選んでいただいたこと、誠にうれしく思います。ラストスタートだったので、会場を沸かせることを一つの目標に走っていたのですが、誰かを心躍らせる走りが出来ていたのなら、なお一層の幸いです。

思えばなぜ自分がこの賞を受賞できたかを考えてみると、もちろん先輩、同期、後輩、勝ちたい人、姉（後ねーね）等関わってくれた方々の力もあると思いますが、一番は神戸大学に来られたことが大きかったです。神戸大学は山の中腹に位置しています。僕のキャンパスは最寄り駅から 100m

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

超登頂しなければ辿り着けません。毎日この高さにある大学を恨みながら授業に通いました。悔しい、悔しい、悔しい、だがそれでよかったのです。神戸大学の急勾配が、何度にわたる階段の行き来が、知らず知らずの内に自分を強くし、今回のスプリントのアップ 100m に耐えうる身体を得られていました。

何が言いたいかというと、どんな欠点も味方につければメリットにもなりうるということです。自分の今の状況を悲観せず、見方を変えれば何かに繋がっているかもしれません。

レース同様のいい感じにまとめられたのでここで終わります。結びに、ぜひいつか神戸大学にも足を運んでみてくれたら嬉しいです。

今回の大会を運営してくださった方々、楽しかったです。ありがとうございました。

#### 4 岩井 龍之介 0:15:59.9 京都大学

今回改めて感じたのはスプリントという競技の難しさです。スピードを上げるほどに増す不確実性やリスクの中で、それでも 1 秒を削るために全力で走らなければならない。僕は元々スプリントが苦手で、去年も散々なレースをして失格になったこともあり、今年は完走して枠を獲得することを目標にしていました。そこでこまめに地図・デフを読み特に失格になる要素を細かく確認して、スピードを犠牲にしても確実なレースをすることに全神経を集中しました。結果としてはその作戦が功を奏し、有力選手が運悪く失格になったことで入賞することができましたが、僕がもし優勝・入賞を狙っていたらまた違う結果になっていたと思います。改めて、スプリントの難しさ、インカレの舞台の何が起こるか分からない怖さが身にしみました。

失格になった有力選手たちが優勝を目指した 1 秒を削るために積み上げてきたであろう多大な努力は想像に難くありません。それに比べると僕の実力や努力が入賞に見合うものだとはとても思えませんが、それでも 4 年間の成果としてこの順位を素直に嬉しく、誇らしく受け止めています。

正直スプリントについてはこれまであまりいい思い出がありませんでしたが、学生最後のスプリントは最高の形で締めくくることができました。応援の声を常に近くに感じながらスタジアムを走り回るの最高に楽しかったです。数多くの難題を乗り越えてこの舞台を用意して下さった運営者の方々に最大限の感謝と敬意の念を払うとともに、来年以降もこの舞台が継続されることを祈念して、コメントとさせていただきます。

#### 5 椎名 晃丈 0:16:24.1 東京大学

5 位に入賞できたことを非常に嬉しく思います。

このレースに向けた主な準備は、大学の地図を使ったスプリント練習と、中津川公園の予想地図と航空写真を用いたイメージトレーニングです。大学の地図を使った練習では、スピードを維持しながら地図を読むなど、毎回課題を設定して練習の質を維持しました。また、予想地図と航空写真を用いたイメージトレーニングでは、どのような地図・コース・人工障壁の組み合わせが現れても対応できるように、様々な状況を想定しました。スピードトレーニングも必要であると考え、陸上トラックで行われる早大 OC のトレーニングにも参加しました。

コース設定者の松澤俊行さんは、私にとってオリエンテーリングを始めた中学生のときからの憧れのオリエンティアなので、今回のコースを走ることを楽しみにしていました。レース中に人工障壁が「GIFU IC」という文字の形をしていることに気づいたときは、嬉しくなっていました。

レース本番はとても落ち着いて走ることができました。会場での熱い応援は、最大限力に変えることができました。本当にありがとうございました。

#### 6 住吉 将英 0:16:31.3 名古屋大学

初のインカレ選手権クラス出場が入賞できたことを嬉しく思います。今回はスプリントのみ選手権出場ということで、スプリントに重きを置いてインカレに向けてトレを積んできました。セレ通過したものの納得いかない結果だったこともあり、セレで負けた相手に勝つこと、過去の OB の先輩に勝つことを目標にしていました。運にも助けられこんなにも良い結果が出ることは予想できず、今でも実感がありません。

レースを振り返っても、思うようにスピードが出せなかった所、呆れるようなミスをしてしまった所がありベストレースとは言えない内容でした。しかし、その中でベストを尽くすレースができた所がこの結果に繋がったのかなと感じました。

フォレストレースはまだまだ至らない所があり、今回は一般クラスでも結果を出せずインカレが終わってしまいました。春のミドル・リレー、来年のロングでは満足いくレースができるよう練習に励みます。

最後になりましたが、きつい所で応援してくれた名楯の皆さん、手厚いサポートをしてくださったオフィシャル・OBOGの方々、そしてインカレ運営者の方々に、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 2.2 スプリント競技部門 女子選手権

### 1 伊部 琴美 0:15:00.9 名古屋大学

今回のレースは今年も優勝したいという思いで臨みました。怪我明けてから体力も戻ってきて、スプリントも回数こなせるようになり準備はしっかりとできました。競技場を貸し切るという形でやるので、どんな感じのスプリントになるのか不安でありワクワクしていました。スタンドの細かい地図読みやグラウンドの迷路などの様々な要素がある今回のスプリントは難しくて止まってしまう場面もありました。しかし会場から見える範囲も多かったので応援を長く感じられ、走り終わったエリートの方からの応援も聞こえ、頑張り切ることができました。階段を登ってスタンドに入った時の開けた景色はとても印象的でした。優勝が決まった時は、とても嬉しくて気持ちが良かったです。どんなコースでも対応できるように練習して、もう一年あるので三連覇目指してこれからも頑張っていきたいです。

最後になりましたが、運営者の方々このような舞台を作っていただきありがとうございました。

### 2 増澤 すず 0:15:26.3 筑波大学

三度目の正直とはなりません。2位という順位は最も優勝に近く、最も優勝から遠い順位だと思えます。私は1位と2位の間にそびえ立つ壁を3年間で乗り越えることができませんでした。とても悔しいです。私がスプリントに魅せられたのは1年生の時の秋インカレです。併設のチャレンジクラスを走り、スプリントにもかかわらず完全に現在地をロスとして散々な結果でした。その同じコースの選手権で同期が入賞していました。入賞した選手たちはキラキラしてかっこよくて、自分もあの舞台で優勝する、と決意したのを覚えています。

インカレスプリントがもう一生やってこないのは本当にさみしいですが、新たな目標を見つけて、今後もスプリントにも向き合っていきたいと思えます。このような素晴らしい舞台を用意して下さいありがとうございました。

### 3 青代 香菜子 0:16:18.1 東北大学

去年から1年間目標にしてきたインカレスプリント WE クラスで、3位入賞を果たすことができました。まずこの場を借りて今まで支えてくださった方々、応援してくださった方々に感謝を伝えたいと思えます。1分1秒を争うスプリント競技で、自分を応援してくれる声がどれほど力になったか計り知れません。ルートをミスした時も、疲れて歩きたくなかった時も、皆さんの声援があったからこそ全力のレースをすることができました。本当にありがとうございました。

去年のインカレスプリントを終えてから、入賞が偶然ではなく実力であることを証明したいと強く思い、練習に励んできました。朝練でのキャンパススプリントや読図走、トレイン研究など、できることは全てやってレースに臨もうと考えていました。この熱意を1年間保つことができたのは、周りに仲間の存在があったからです。自分で練習メニューを組んだり、予想コースを作ったり、様々な人のインカレに対する熱意が私を後押ししてくれていたと思えます。このような環境にいられたことを本当に幸せに思います。

インカレという舞台は私にとって最高の2日間であり、仲間と素直に喜んだり悲しんだりできる青春の場だと思っています。そのような舞台にあと1回しか立てないと思うと、とても寂しいです

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

が、最後のインカレは今までで一番楽しかったと言えるように準備をしていきたいです。

#### 4 香取瑞穂 0:16:19.5 立教大学

立教大学3年の香取瑞穂です。今回のインカレスプリントでは、4位入賞という貴重な経験をさせていただきとても嬉しかったです。

インカレ前には、OLKの先輩が作成して下さった予習マップで地図読みをしたり、自分では理解の出来なかったスタンドの構造を説明して貰ったり、対策練では2マップやテクニカルなコースを事前に体験出来たり、周りの方々のお陰で入賞する事が出来たと感じております。当日のレースでも、競技場に近づいてくるにつれて沢山の応援の声が聞こえ、最後まで諦めずに走り続けることが出来ました。本当に皆さんの応援が力になりました。感謝してもしきれないです。これからは与えてもらうだけではなく、OLKに貢献していきたいと思いました。さらに、自分自身もより上の成績を目指して、これから強くなっていきたいです。

最後になりますが、この様な素敵な舞台を用意して下さいました運営者の皆さま、当日まで支えて下さったオフィシャル・コーチの皆さま、応援して下さいました皆さま、本当にありがとうございました。

#### 5 世良 史佳 0:16:44.7 立教大学

私は去年の秋インカレで初めてリレー以外の選手権クラスに出場しましたが、大舞台に頭が真っ白になってしまいスプリントでは枠を落とす結果となりました。セレでは一位を取ったのにも関わらずこのような結果になってしまったことは、関東の方々への申し訳なさやレースに対する悔しさから、とても心にくるものでした。

今年のスプリントセレを通過することができたとき、去年のような緊張のあまり自分のオリエンテーリングができないレースは絶対にしたくないと思いました。よって、自分の満足のいくレースをすることを目標に頑張ってきました。

去年そのような経験をして臨んだスプリントであったからこそ、今回入賞できたことは本当に嬉しかったです。入賞者が確定してアナウンスが流れ、自分の名前が呼ばれたときはダウンエリアで1人「やった！」と声が出てしまうほどでした。去年自分が取ることのできなかった枠も取り戻すことができたのかな、と思いました。初めて選手権という大舞台で自分の満足のいくレースをすることができました。

最後に、このような素晴らしい舞台を準備して下さった運営者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### 6 出田 涼子 0:17:01.8 大阪大学

初めは優勝を狙っていました。憧れのインカレ金メダルを取れる一番のチャンスだと思ったからです。そのため、スプリントにはなるべく参加し、ペース走やインターバルにも取り組みました。

しかし、意志が弱く、その習慣もいつの間にかリセットされ、気付いたらインカレが目の前まで迫っていました。慌てて読図走やYoutube動画の視聴を行いました。優勝するには技術が、走力が、努力が致命的に劣っていると感じていました。

当日は私が望んだようなテクニカルな楽しいコースが待っていました。それなのに、自分の強みを活かさず、スタジアムの中で右往左往してしまいました。また、シンプルにしんどく、全然走れませんでした。

最後のインカレスプリントで入賞はできて良かった。このタイム差をひっくり返して優勝するのはムリ。……でも結局1年の時の記録を超えることはできなかったなあ。ゴール後に抱いた感想はこんな感じです。嬉しいはずなのに喜びきれない、納得できているはずなのに悔いが残る。

私はもうインカレスプリントの舞台には立てませんが、強い後輩がたくさん育っています。後輩たちは心から納得行く結果が残せるように、持ちうるすべてを尽くしてサポートしていきたいです。

最後になりましたが、一緒に練習したり力強い声援をくれた阪神奈の仲間たち、オフィシャルさん、運営者、その他支えてくれた方全員に感謝申し上げます。

## 2.3 ロング・ディスタンス競技部門 男子選手権

### 1 大橋 陽樹 0:1:04:40 東京大学

満足のいくレースができ、最高の結果が付いてきました。とてもとても嬉しいです。今年は一時的に不調そうな時期もありましたが、インカレに照準を合わせて調整をし、インカレ前週の対策練でいいレースができ、インカレ当日は本当に絶好調の状態です。自信を持ってレースに臨むことができました。レース内容は小ミスをいくつもやっていたので完璧とは言えませんが、小さなミスが気になるくらい集中できていて、とにかく一生懸命に走っていました。苦しいときには前日のスプリントの失格を思い出し、こんなんで終わりたいと思ったのも踏ん張る力になりました。会場に近づいていくとすごい声が聞こえてきて、第3中間を取った後の歓声は今でも耳に残っています。

会場ではたくさんの方に迎えてもらいました。そして、「おめでとう」ばかりでなく、「ありがとう」や「嬉しい」といった言葉をもらいました。自分の結果を喜んでくれる人がこんなにもいるなんて、なんて幸せなんだ、と感じました。応援してくれた人、期待してくれた人、本当にありがとうございます。また、いつも上を目指させてくれる種市を始めとするライバルたち、普段からOLKを支えてくれている皆様に感謝しています。彼ら無くして自分の走りはありませんでした。春インカレでも期待以上の走りができるよう、全力を尽くします。

最後に、忙しい中このような舞台を用意して下さった運営者の皆様に心よりお礼申し上げます。

### 2 小牧 弘季 1:04:52 筑波大学

ロング選手権で優勝すること。これは今年度最初に定めた2019年最大の目標でした。そのために夏の間は大会だけでなく練習会にも積極的に参加し、正確なナビゲーションと素早い動作という自分の課題を解決しようと努めてきました。その甲斐もあってか、ロングの大会で結果が出るようになりました。とはいえインカレ前は不安に包まれました。旧図の読みこみや走り込みがやや不足していたことに加え、強力なライバル選手がいる中で勝つことを明確に意識したインカレは初めてでした。「自分にできることだけをする」「ルートチョイスは自分の選んだものがベストだと考えて走る」などの心得を確認し、メンタルを整えて臨みました。そのため当日はあまり緊張せず、淡々とレッグをこなしていくことができました。自信をもって直線的なルートを選び、スピードを出して進みました。ほぼベストなレースができたと思いました。しかしながら勝つことはできませんでした。その差はほんの十数秒ですが、優勝した大橋選手とは大きな差を感じます。地力の差です。自分のオリエンテーリングはまだまだ下手で遅いと痛感しました。今後はもっとオリエンテーリングが早い選手を目指し取り組んでいきたいと考えています。インカレミドル・リレーでもっと早くなって走ることが楽しみで仕方ありません。言葉だけといわれぬよう精進していきます。応援していただいた皆様、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

### 3 種市 雅也 1:09:02 東京大学

インカレという素晴らしい舞台を整えて下さった運営者の皆様、最後まで一生懸命声を張ってくれたOLKのみんな、この日まで期待してサポートし続けてくれたオフィシャルさん方、いつも競い合ってきたライバル達に感謝です。本当にありがとうございました。

今回のレースの目標は優勝でした。それは2年生の頃から変わらずずっと追いつけてきた目標です。今までの練習やレースに思いを馳せると3位という結果に満足することはできませんが、この日までの自分の取り組みに後悔はないです。今回出し切れなかった分は、次のインカレミドルで出し切ります。

僕は優勝できませんでした。チームメイトの大橋が優勝してくれました。1年生の頃からラントレや部内練習会で競い合ってきた仲間の勝利は素直に嬉しかったです。その分、自分はベストを尽くせなかったことがとても悲しくなりました。僕ら4年生にはあと1回しかインカレがありません。最後の個人レースで一番輝けるようにこれからも頑張っていきます。改めて、応援してくれた方、期待をかけてくれた方、サポートしてくれた方全員に心から感謝しています。ありがとうございました。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

#### 4 北見 匠 1:09:46 東北大学

これまでのインカレは苦く悔しい思いばかりでした。大舞台に力んでか力を十分に発揮することはできず、特に昨年度はスランプも重なって周りや自分の期待に応えられず、ライバルだと思っていた他大同期の表彰台に上がっている姿を遠くからただ眺めているのが私のインカレでした。インカレで勝ちたい。この気持ちが現役最後4年生の自分の原動力でした。出れる遠征には滋賀でも静岡でも宮城から行き、怪我もありましたが嫌いなトレを継続し、やれることをやっていると思ったレースで結果が出るようになりました。最善は尽くした今度こそ勝つと意気込み、自信を持ってインカレに臨めました。

そして、入賞しました。ゴール後、トップタイム更新の実況では声を出して喜びました。応援してくれた東北大の仲間達と会うと泣いて喜びました。とにかく嬉しかったです。うれしくて頬が緩みっぱなしでした笑。積み重なった悔しさが吹き飛び、努力が報われ、徐々にインカレで笑えました。しかし、レース運びは前日のスプリントのミスからミスを恐れて入賞を確実に狙う安全な走りになってしまいました。次は優勝して笑っていられるようにまだまだレベルアップしてミドルリレーに挑みます。

最後になりましたが、一緒に練習してきた東北大の仲間達、切磋琢磨して競い合ってきた全国同期、忙しい中インカレの舞台を提供して頂いた運営者の方々、皆さんありがとうございました。

#### 5 椎名 晃丈 1:14:53 東京大学

5位に入賞し、入賞者6人のうち3人を東大で占められたことを非常に嬉しく思います。

このレースに向けた主な準備は、長時間走るための体カトレーニングと、予想コースを用いた読図走です。体カトレーニングに関しては、トレーニング1回あたりの走行距離を伸ばしただけでなく、不整地で体力を奪われないための筋トレと体幹もしました。読図走に関しては、マップコンタクト1回で多くの情報を得るようにするなど、毎回課題を設定しました。

このレースに向けた準備の量・質に自信があったため、本番はとて落ち着いて走ることができました。レース中は普段の読図走をしているときのような冷静な気持ちで走っていました。

レース中盤以降は体力的に苦しかったですが、会場で必死に応援しているOLKの人たちのことを思い出して耐えることができました。本当にありがとうございました。

インカレミドル・リレーに向けて、全国の速い大学生オリエンティアが今回以上に全力で準備してくると思います。その人たちに勝って選手権リレー優勝という目標を達成するために、私も気持ちを新たにこれからも努力していきたいです。"

#### 6 岩井 龍之介 1:14:57 京都大学

決してベストなレースではありませんでした。序盤からリズムをうまく組み立てることができず、ミスを重ねてしまいました。ロングレグの途中両足を攣り、一時はまともに走れなくなりました。終盤10分後の大橋選手に追いつかれた時には、ああ、僕のインカレロングは終わってしまったんだと、心が折れかけました。それでも動かない足で必死に食らいつき、最後まで走り続けてゴールで入賞を告げられた瞬間の喜びは、どんな言葉にも代えがたいものでした。

インカレの表彰台に立つ。4年間掲げ続けたその目標は、初めは1年生の頃にエリート選手の走りを見て抱いた純粋な憧れでした。しかしそれは、学年が上がり周囲の期待が大きくなるにつれ、入賞しなければという義務感に変わっていきました。同期が活躍する中、自分は良い成績を残せないままインカレが終わるたびに、次こそは、次こそはと、その焦燥感が増えていきました。そしていつしかオリエンテーリングを楽しめなくなりました。そんな中でも何とかここまで競技を続けてきて、今回辛くも入賞を掴み取ることができたのは、自分にとって大きな、大きな価値があります。こんな自分を支えてきてくれた仲間には感謝してもしきれません。

その目標を果たした今心の中に残るのは、純粋な悔しさです。上位選手との間には今の実力では覆せない大きな溝があります。もう一度勝負したい。今度こそは勝ちたい。今一度自分のオリエンテーリングに向き合って、春インカレでは集大成と言えるようなレースをしたいです。

人生に残る最高の2日間でした。最高の舞台を用意して下さった運営者の方々、声を枯らして応援してくれた皆さん、本当にありがとうございました。

## 2.4 ロング・ディスタンス競技部門 女子選手権

### 1 宮本 和奏 1:13:19 筑波大学

筑波大学3年の宮本和奏です。まず、今回のレースの目標は入賞でした。優勝を目指さないことには入賞もできないぞと周りから圧力をかけられていましたが、私の他に前評判の高かった選手がいたため、優勝は遠い目標のように思っていました。一方で、いつも勝つことができない増澤さんに勝ちたいという気持ちもありました。レース中は前半にミスをしてしまったので、順位を考える余裕はありませんでした。ゴールした直後はまさか優勝しているなんて思っていなかったです。実はレース前日に部員の前で、レース展開について「ラストスタートなので、優勝のカウントダウンが始まるくらいでラスポに現れます。」と目標を話しました。なんと当日その通りになったようで、嬉しかったです。今回優勝できたのも部員をはじめたくさんの方の応援や支えがあったからです。特に、コーチである河渡さんにはとても感謝しています。今後も他の選手達と切磋琢磨していけるように頑張ります。ありがとうございました。

### 2 伊部 琴美 1:13:28 名古屋大学

ロングは挑戦者の気分でした。昨年は3位、最近の全日本でも学生内でトップにはなれなかったため、インカレではスプリントとは違った気持ちで優勝したいという気持ちでした。椈の湖は難しく、ミスしやすいイメージがあり不安でした。やはり本番のレース中もいくつかミスをしてしまいましたが、イメージ通りだったので焦らず落ち着いて切り替えることができました。最後まで集中して走り切ろうと思いレースをしました。暫定1位と言われた時はすごくびっくりしてうれしかったです。長い間気を張っていたんだと自分でわかるほど、気が緩んでホッとしました。結果的に優勝は逃してしまったので悔しいですが、これだけの接戦になったのは面白いなと思いました。ロングだったらどれだけでも削れる可能性のあった9秒なので、悔しい気持ちを忘れずにこれからのインカレのバネにしたいです。

最後になりましたが、色々大変なこともあったと思いますがこのような舞台を開いていただきとても感謝しています。ありがとうございました。

### 3 小林 祐子 1:13:58 東北大学

こんにちは。インカレロングで3位になりました、東北大学3年の小林祐子です。今回は目標だった入賞を果たすことができとても嬉しいです。私は今までいろんな大会に出てきましたがあまり良い成績ではなかったため、シード選手に選ばれた時は本当に驚いたし正直すごいプレッシャーでした。前日のスプリントでも全然集中できなくてひどいレースをしてしまったので、ロング当日は不安と緊張でいっぱいでした。でも、自分が今できる最高のレースをしようと思って頑張ったら、思った以上に良い順位をとれて嬉しかったです。去年と異なりビジュアルがレース後半にあったので、疲れている時の応援がすごくすごく力になりました。瑞穂ちゃんに1秒差で勝てたのも応援のおかげだと思います。でも、1位とのタイム差が1分もなかったことを知って、あそこでミスをしなければ…という悔しさもあります。この悔しさはミドルとリレーで晴らします！ミドルとリレーでは優勝目指して頑張ります！！👊

### 4 香取 瑞穂 1:13:59 立教大学

ロングでは優勝を目標にトレーニングをしていました。しかし、全国には強い選手が多くおり、自分には優勝という目標が高いのではないかという思いがあって、中々口にすることが出来ていませんでした。

インカレ前には、OLKの方々が組んでくださったコースで沢山ルート検討をして対策をしました。そのおかげで、当日のレースでのルートチョイスや、チェックポイントの設定に役立ち、準備してきたことをしっかりレースで出すことができました。ところどころミスはあったものの、自分の今

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

出来るベストに近いレースが出来たのではないかと思います。インカレという大舞台で入賞出来た事は素直に嬉しく、これからの自信にも繋がりました。

しかし優勝している同期はやっぱりキラキラ輝いていて、とてもカッコよかったです。尊敬の念を抱くとともに、とても羨ましく思いました。今回のレースでも沢山の課題を見つける事が出来たので、次のインカレに向けて改善していきたいです。これから、堂々と優勝を目標に掲げ、優勝できるような選手になれるように精進していきます。

最後になりますが、このような素晴らしい舞台を用意して下さった運営者の皆さま、支えて下さり応援して下さった皆さま、本当にありがとうございました。

### 5 増澤 すず 1:14:32 筑波大学

「優勝しか見えない」という言葉は根拠のない自信からではなく、対策やトレーニングに裏付けされた根拠のある自信から出た言葉でした。でもだめでした。レース後はただ負けたことが悔しくて悲しくてショックで何も考えることができませんでした。時間が経って振り返ってみると、意識はせずともインカレという舞台でやや慎重になりすぎたり守りに入ったりしてしまった部分がありました。春に向けての課題も見つかったので、残りの3、4ヶ月で技術面、精神面ともに鍛えていきます。

3年間選手権ロング本当に楽しかったです！運営者の皆さん、応援して下さった皆さん、ありがとうございました。

### 6 世良 史佳 1:15:44 立教大学

インカレロングは、去年ロングセレが中止になって推薦落ちしてしまった時から意識してきたレースでした。その分今年のロングセレを2位で通過した時は、もしかしたら自分の力が少しでも通用するのかもしれないと思い、一層その思いは強くなりました。

しかし、シード選手が発表されたときに、多くの全国同期の名前が入っているのに自分の名前がないことを見て、そんなに期待されていないと言われたような気持ちになり、少しショックな気持ちになりました。けれど、レース前から気持ちで負けたらもったいない、今までインカレで結果を残していないから当たり前じゃん、逆にノーシードで入賞することが出来たらすごいカッコよくない？と思い直すことができ、当日は挑戦者として臨もうと考え直しました。

しかし当日、△1でかなりミスをしてから1ポに着いたとき、今回も今までと同じような満足いかない結果になるのかなと弱気になりました。しかし、次のプランを立てながら、今日自分は挑戦しにきたんだ！と最初の気持ちを思い出し、最後まで走り抜くことができました。フィニッシュ後に結果を聞いた時、序盤で心が折れさず、最後まで諦めなくて本当に良かったと思えました。

最後に、このような素晴らしい舞台を整えて下さった運営者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 3

## 競技結果と解説

### 3.1 スプリント競技部門

コース設定者 松澤 俊行

<はじめに>

大会当日会場で配布した観戦ガイドに、次の文章を記した。

スプリント競技は、コントロールへのアタックが「技術的に容易」であるものの、「非常に高速度」の走行下で「難しいルート選択」を迫られ、そのための「高い集中力を要求」される種目である。（日本オリエンテーリング競技規則および関連規則類の運用に関するガイドライン付表 2「オリエンテーリング競技形式の概念と基準」を検索、参照。）

運動公園タイプのテレインでは、スポーツ施設等人工構造物の迂回を迫ってルートチョイスを問うレグが多く見られる。しかし、この日のテレインには「遊具広場では多くの人手が予想される」「ふれあいセンター周辺ではイベントが開催される」「野球場（夜明け前スタジアム）では野球試合が行われる」といった事情があり、これらエリアの内部あるいは周辺を使用できない、といった制約が生じていた。その中でルート選択を迫るために、グラウンド上の臨時柵（コース図上は壁として表記）やスタンドを多用することとなった。実際ルートはかなり分かれ、この点に関しては設定者の意図した展開が見られた。

ここでは、設定者の想定ルートを記し、入賞者が提出したルートとラップデータに基づく分析を加え、読者が今後スプリントレースに臨む上で参考にしうる資料を提示しておきたい。

なお、本稿を作成する上で男女選手権入賞者 12 名の他、大橋陽樹選手、種市雅也選手、北見匠選手からもルート図の提供を受けた。3 選手とも誘導区間不通過により失格となったものの、コース全体を入賞者相当のペースで走っている。注目されるルートチョイスレグについて 3 選手のラップデータが残っており、比較が意味を持つものと期待されたため、協力をお願いした。当方の趣旨をご理解いただき、ルートを提出していただいた 3 選手にはこの場を借りて感謝の意を表したい。

以下、紹介するルート図はスペースの都合上、適宜縮尺や角度を調整している。解説に方角も使用しているので角度の調整は最小限とした。（180°回転はしていない。）解説で複数ルートを紹介している場合、一部を除いて「①」のルートが設定者想定のレストランルートである。なお、図中にはルート番号を記していないので解説文を読んで確認していただきたい。

<WE解説 コース：距離 2.0km（想定ベストルート合計距離 2.8km） 登り 80m 21 コントロール>

ここからWEの解説をしていく。ルートが確認できているのは入賞者の 6 選手（伊部琴美、増澤すず、青代香菜子、香取瑞穂、世良史佳、出田涼子）である。



スタート→1→2

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

簡単な序盤。→1 は図に記載したルート以外には舗装路へ出て建物を右（南）から迂回するルートも考えられるが、アタックで柵を越える必要が生じ、タイムロスとなる。伊部（→1 で 1'01）はコントロールのだいぶ前で一旦柵を越えており、もう一度越え直すのを嫌ってか、柵を大回りしてコントロールへ向かったようだ。ここで 15 秒の遅れを取っている。

[参考]

→1 (140m ※スタートフラッグ前の 80m の誘導区間含む)

ベストラップ 0'46 香取 世良

→2 (150m)

ベストラップ 0'47 青代 小林祐子（東北） 永山尚佳（神戸）

2→3

柵を越えて真っ直ぐ向かう（①紫 80m）か、道を回って階段を下る（②青 100m）かの選択。柵がやや高いこと、越えた先が急斜面であることから、心理的に②へ流れやすかったか。①を香取（0'28）、出田（0'31）が選択、②を伊部（0'25）、増澤（0'30）、青代（0'28）、世良（0'31）が選択。

[参考] ベストラップ 0'25 伊部

3→4

出戻り調に東へ脱出、急斜面を登る（①紫 190m）か、西へ脱出して階段を昇る（②青 230m）かの選択。①は不整地走行を含み、立入禁止へ飛び込む危険も匂う。そのため、②の方が安心してスピードを維持しやすい面もある。①を伊部（1'08）、香取（1'17）、世良（1'14）が選択、②を増澤（1'20）、青代（1'12）、出田（1'24）が選択。

[参考] ベストラップ 1'08 伊部



4→5→6

4 から誘導の起点の 5 番までスタジアム沿いを進む。5 番通過後は地図から判読が難しいスタジアム観覧席下層の階段を誘導で昇って観戦者へ姿を見せる。誘導区間の終点から眼前に見えるグラウンドの真ん中のコントロールへどう向かうか、スタンド出口の読み取りを迫られる。男子選手権ではこの区間が完走と失格を分ける大きなアヤとなったが、女子でも多くの選手に戸惑いが見られたようだ。→5 では全員がベストラップから 4 秒以内に収まっている上位者も、→6 ではタイムにばらつきが見られ、香取（1'08）はベストラップから 14 秒離されている。

[参考]

→5 (50m)

ベストラップ 0'14 小林祐子（東北）

→6 (180m)

ベストラップ 0'54 伊部

6→7→8→9→10

ハードルで設営された臨時壁を駆け抜ける区間。出場者たちからは「迷路」とも呼ばれたが、冷

静に読めば最短ルートの判断は難しくない。9月の時点で同じ形状の臨時壁を施した試走をし、難易度の適切さを確認していた。ただし「課題が切り替わる」、「観戦者に見られている」、そして「インカレ本番である」という状況から、冷静になることは途轍もなく難しい。舞い上がりそうになる中でも自動的に手続きを行えるか。この手の課題をこなした経験数もタイムに影響する区間である。

世良は→7で誤って8へ向かいかけたか、あるいは単にルート選択を誤ってしばらくしてからそれに気付いたか、北西へ数十m進んだ後に180度引き返し、このレッグ(0'32)でトップラップから13秒遅れている。香取は→8で6方向へ戻るように回る選択をしてしまい、5秒のロス(0'32)を喫した。

→10では、増澤(0'33)、青代(0'34)、香取(0'32)、世良(0'34)、出田(0'35)が壁の間を行くルート(①紫125m)を選択する中、約1割距離が延びる迂回ルート(②青140m)を選択した伊部(0'37)が数秒のロスタイムを計上している。なお、設定者がベストと想定していたのは右に別途記した6を経由するルート(緑)で、これは①よりもさらに短く120mほどである。ベストラップの小林はこのルートを選んだのかもしれない。

[参考]

→7 (90m)

ベストラップ 0'19 香取 永山尚佳(神戸)

→8 (110m)

ベストラップ 0'27 青代 世良 塚越真悠子(大阪) 篠塚みずき(横浜市) 神戸麻衣(新潟)

→9 (70m)

ベストラップ 0'17 世良 神戸麻衣(新潟) 伊東加織(東北)

→10 (125m)

ベストラップ 0'31 小林祐子(東北)



### 10→11→12

「迷路」を抜け出した選手たちはグラウンド外、スタジアム外へ飛び出す。→11は大型階段を昇るルート(①紫180m)か、坂道を回るルート(②青260m)かの選択。階段はちょうど百段ある。無論段数までは読み取れないものの、地図からも十分迫力が伝わり、現地でも威容を誇る。最初から大型階段を却下する方針の選手も多かったろうが、このレッグに関しては階段使用が特に大きく距離を縮める。上位者は①を増澤(1'12)、香取(1'05)、出田(1'22)が、②を伊部(1'17)、青代(1'33)、世良(1'54)が選択と、きれいに二分された。伊部のタイムを見ると、②も思い切って走ればかなり①に対抗できると分かる。タイムでは劣っても、階段より先読みがしやすい姿勢で走行できるだろう。

→12は入賞者全員が小階段を昇るルート(50m)を選んだ。女子にとっては男子以上に柵のまたぎ越えが煩わしく感じられるのは確かだろうが、これほど直進ルート(30m)が選ばれないのは設定者にしてみれば意外だった。

[参考]

→11 (260m)

ベストラップ 1'05 香取

→12 (50m)

ベストラップ 0'18 伊部

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧



## 12→13

地図を裏返して最初のレッグがコース中最長のレッグで、いきなり広範囲の読図と冷静かつ速やかな判断が求められる。階段を降り、グラウンドを（観戦者の前方を）横切るルート（①紫 320m）が最も距離を縮められる。グラウンドへ下る部分が煩雑と見て階段を降りた後にバックスタンド裏（観戦者の背中側を）通るルート（②青 380m）は円弧を描くだけに相当距離が延びる。円弧状のルートであれば、階段ではなく坂道で下りをこなせる大迂回ルート（③緑 400m）の方がシンプルでスピードに乗れる。①ルートを伊部（1'48）、香取（1'49）が、②ルートを青代（2'11）が、③ルートを増澤（1'47）、世良（2'02）、出田（1'58）が選択した。

[参考] ベストラップ 1'47 増澤



## 13→14→15

スタンドから出て池の南斜面へ。この→14 も一つの勝負レッグである。まずはどの階段を降りるかの判断が問われる。13 から一つ東のスタンド出入用階段を降り、臨時壁の先端をかすめてスタジアム北方の大型階段を降りるルート（①紫 190m）が最有力である。大型階段を降り切った位置はほぼ 14 番コントロールと同じ高度となっており、登りもない。13 から二つ東の階段（前半の誘導に使用した階段）を降りて斜面の下りアタックをするルート（②青 220m）も悪くない。この斜面は整備された疎林で、かなり走りやすい。もちろん、①と②の前半と後半をそれぞれ組み換えたルートもある。

世良（1'12）出田（1'10）は①を選び、伊部（1'11）増澤（1'07）青代（1'19）は②を選んだ。右図は世良と香取のルート。世良は大型階段を降り切った後に少し膨らんで数秒を失い、香取（緑ルート 1'58）は南へ脱出し大回り、しかもアタックをミスしてかなりのタイムをロスしている。

→15 の 50m の直進は林の中の登りで、入賞者は 20～28 秒で走っている。

[参考]

→14 (220m)

ベストラップ 1'07 増澤

→15 (50m)

ベストラップ 0'20 増澤 香取



### 15→16

序盤に誘導路となった階段を昇れば 16 へ近付ける。このルート (①紫 160m) に気付けば機敏に動けるが、後半の地図には誘導表示がなく「あの階段へ行く」とは思えないかもしれない。地図でも現地でも手前にある東の階段に目が行きがちで、このルート (②青 170m) を選ぶ選手も多かったようだ。②はスタンド内に設置した臨時壁のせいで小刻みに階段を昇り降りすることとなり、距離も①より長くなってしまふ。

伊部 (1'05)、増澤 (1'27)、出田 (1'27) は①、青代 (1'18)、香取 (1'24) は②。世良 (1'42) はスタジアム内に入った後ミスに気付いてUターン、①ルートへ合流した。ベストラップから 13 秒差の青代が 2 番手ラップを獲得しており、多くの選手がこのレッグで戸惑い、てこずった様子が見て取れる。伊部は一貫して思い切りの良い走り続けている。

【参考】 ベストラップ 1'05 伊部



### 16→17

序盤の誘導後に誰もが降りた階段と対称の位置にある東端の階段は出口が塞がれている。塞がれた階段の方へ猛然と向かい、「心理トリックに嵌った」と嘆いた選手が続出したレッグ。西端の、あの「誰もが降りた階段」をここでも降りるのが正解 (①紫 180m) である。コンロール通過時の体の方向も良く快適だが、ルート序盤が逆走となるため正解に辿り着きにくい。誘導路となった階段からスタンドを脱出するルート (②青 200m) も有力。→16 同様、小刻みに階段を昇り降りするルート (③緑 200m) はあまりお奨めできない。

伊部 (1'12)、増澤 (1'12) はトリックに嵌った。ちなみに前走の稲毛日菜子選手 (1'10) も嵌っていた様子が見撃されている。②は出田 (1'27) が選択。→16 のミスで東端の階段が塞がれていると覚っていた世良 (0'57) も②。青代 (1'23)、香取 (1'19) は③。①は入賞者には選ばれなかった。恐らく①を選んだであろう清野選手、篠原選手の読みの広さ・深さ・思考の柔軟さは賞賛に値する。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧



## 17→18→19→20→21→フィニッシュ

地足の強さと粘りが問われる最終盤。→20は「G」型の壁と「I」型の壁の間を抜けるルート（①紫 190m）が最短。「F」と「U」をかすめるルート（②青 195m）は少々面倒か。「I」に沿うルート（③緑 195m）も①より少し膨らみ気味。伊部（0'46）、増澤（0'45）、香取（0'47）は①。青代（0'48）は②。世良（0'49）、出田（0'54）は③。

## [参考]

→18（60m）

ベストラップ 0'16 伊部 青代 香取 世良 小林祐子（東北） 篠塚みずき（横浜市立）

→19（40m）

ベストラップ 0'08 神戸麻衣（新潟）

→20（190m）

ベストラップ 0'45 増澤

→21（30m）

ベストラップ 0'05 高橋利奈（日本女子）

→フィニッシュ（70m）

ベストラップ 0'12 増澤 河野珠里亜（新潟） 小竹佳穂（筑波） 八木橋まい（東北）

優勝タイム 伊部琴美 15分00秒9 ベストラップ合計 13分45秒

## WE短評

入賞者も凡ミスをしているが、それを補って余りある走力と決断力が感じられる。入賞者以外にもベストラップを複数回獲得している選手がいる。彼女たちは、近い内に入賞者と遜色ない走りを見せるであろう。ベストラップはないながらも手堅い走り続けた出田の走りも、多くの選手の手本となりそうである。

<ME解説 コース：距離 2.6km（想定ベストラップ合計距離 3.6km） 登り 100m 24コントロール>

MEのコースは、基本的な設定コンセプトはWEと同じであるが、総ルート距離を1km近く延ばせる分さらに歯応えのあるレッグを織り込んでいる。解説でもさらなる咀嚼を加えていきたい。

ルートが確認できた選手は入賞者である小牧弘季、大石洋輔、川島聖也、岩井龍之介、椎名晃丈、住吉将英、後日追加で回収をした大橋陽樹、種市雅也、北見匠の9名である。彼らは非常に興味深い走りを見せてくれた。



### スタート→1→2

→1 は、狭い範囲ながら何とかルートチョイスの課題を練り込んだ。オープンの斜面を下って崖沿いに進む (①紫 170m) か、舗装路へ出る (②青 170m) か。①は小刻みな起伏があるので、それが遅いと見て建物を過ぎてから柵を越えて舗装路へ出るルート (②に近いので②'とする) もあるが、跳び越えられる柵ではなく、越える分の時間が数秒プラスされる。①を大石 (0'43)、②を椎名 (0'47) が選択した。小牧 (0'43)、川島 (0'44)、岩井 (0'45)、住吉 (0'44)、大橋 (0'43)、種市 (0'43)、北見 (0'43) は揃って②'ルートで、実戦心理として選ばれやすいルートであったことが分かる。道と道の間細長いオープンはコントロールに向かって伸びており、魅力的に映る。しかし、跳び下り禁止の崖際なので避けたくなるのも実戦心理か。このルートは出場者全体の 1 人しか選んでいなかったと現地係員が証言している。

→2 は舗装路を 120m 走るだけの区間だが、入賞者のほとんどがトップラップより 5 秒以上時間を掛けており、先読みを進めている様子が窺える。

[参考]

→1 (170m ※スタートフラッグ前の 80m の誘導区間含む)

ベストラップ 0'38 谷野文史 (筑波)

→2 (120m)

ベストラップ 0'28 大野絢平 (京都)

### 2→3

池をどちらへ回るか。2 番の位置から見える 3 番コントロールは右 (北) 回り (①紫 150m) でも左 (南) 回り (②青 150m) でも差がない位置としている。4 番コントロールは南にあるので、①の方がタッチフリーの利を活かしやすいと言えそうである。①を小牧 (0'36)、川島 (0'39)、大橋 (0'36)、②を大石 (0'37)、岩井 (0'36)、椎名 (0'45)、北見 (0'37) が選択。住吉 (0'37)、種市 (0'38) は右回りだが、柵越えはせず階段を降りている。

[参考] ベストラップ 0'34 小林尚暉 (東京)



### 3→4

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

階段を昇るルート(①紫 160m)と、斜面の林を登るルート(②青 170m)が見える。①の階段は非常に昇り降りがしやすい傾斜と作りになっている。もちろんそれは地図から読み取れないので、②を選びたくなっても尤もである。①を大石(0'49)、岩井(0'51)、椎名(0'49)、住吉(1'15)、大橋(0'49)、種市(1'10)、北見(0'49)が、②を小牧(0'51)、川島(0'53)が選択している。住吉と種市が大きく離されているのは、一旦スタンドへ入ってしまったからである。

【参考】 ベストラップ 0'48 外石裕太郎(新潟) 石渡望(東北)



#### 4→5→6

5番コントロールから誘導が始まるのはWEと同じであったが、MEでは見落としが相次いだ。

[1] スタンドにまずは読図力を問わずに入れる(そうしてスタンドに慣れてもらう) [2] レッグの面白みを増す(一旦スタンドに入らないと面白いレッグにならない) [3] 観客に全選手の姿を見せる(序盤は差が付きにくい設定であるため一定の間隔で見れることが期待される)といった理由から設けた誘導区間が、少なからぬ数の失格を招くこととなった。選手の追い込み度合いや先読みへの貪欲さを想定し切れていなかった。現地の設営云々以前に誘導を行うこと自体に問題があったと考えられ、設定者としては敗北感を覚えている。それでも、このレースの競技コントロールに対しては「不合格とまではいえない」との裁定が出ている。個人的な感情は措いて解説を進めたい。

→6は、階段を降りたらグラウンド中央方面へ向かう(①紫 190m)のでも、真っ直ぐ進んで芝生フィールドに沿ってから折れる(②青 190m)のでも差は付かないと見られる。①を小牧(0'57)大石(0'55)が、②を川島(0'53)岩井(0'55)椎名(1'01)が選択。住吉(0'56)は芝生フィールドに沿い続け、直角に曲がってアタック、①や②に対して10mほど長いルートを取っている。大橋、種市、北見のルートは割愛する。

【参考】

→5 (50m)

ベストラップ 0'12 宮川靖弥(東京工業) 石田晴輝(東京) 金子哲士(東北)

→6 (190m)

ベストラップ 0'54 山田基生(東北)

※ →6に関しては失格者のデータを除外してベストラップを認定している。

#### 6→7

「G」型の壁を左(西)へ回る(①紫 120m)か右(東)へ回る(②青 135m)か。小牧(0'24)、椎名(0'27)が①、大石(0'28)、川島(0'27)、種市(0'28)が②。岩井(0'33)、住吉(0'26)、大橋(0'28)、北見(0'27)はもう少し膨らむルートで、「I」字を南に沿って僅かに芝生フィールドをカットしている。「U」型の壁を左(西)から巻くルート(③緑 120m)も①と距離がそう変わらず有力だが、入賞者は選んでいない。

【参考】 ベストラップ 0'24 小牧 長岡凌生(東北) 金子哲士(東北)

#### 7→8→9

ここはルートが分かれないうち…と思われたが、→9のベストラップ獲得者の1人住吉(0'31)はここで7番の方へ戻り、「F」字型の壁も北から回ったと申告している。

【参考】

→8 (80m)

ベストラップ 0'18 小牧 長岡凌生 (東北) 石川創也 (名古屋) 伊藤元春 (東京) 種市 南史玖 (名古屋) 朝間玲羽 (東京)

→9 (140m)

ベストラップ 0'31 住吉 大橋 種市 江野弘太郎 (慶應義塾)



### 9→10

大きくは二つ、競技場東の駐車場の南を通って行く (①紫 320m) か、大型階段 (②青 310m) を昇るか。①ルートのアタック部分で芝生養生地 (紫ハッチが掛かった楕円の黄色) を西から巻くルートは①'としよう。①を大石 (1'42) 川島 (1'31) 椎名 (1'35) 大橋 (1'25) 種市 (1'25) 北見 (1'25) が選択。(椎名は芝生養生地と金網の間を通過するという微妙に異なるルートだった。) ①'を小牧 (1'22)、岩井 (1'50) が選択。(岩井は駐車場で 10 秒立ち止まった、と申告している。) 残る住吉 (1'37) が選んだのは②ルートではない。駐車場を北から巻くルート (③緑 370m) だ。住吉は徹底して「間を縫う動き」を避けている。その徹底ぶりはこの後も続く。

[参考] ベストラップ 1'22 小牧

### 10→11→12→13

1 柵を越えて 11 番コントロールへ。→12 はまた柵を越えて真っ直ぐ (①紫 30m) か、階段回り (②青 50m) かに分かれた。小牧 (0'15)、川島 (0'11)、岩井 (0'13)、が①を、大石 (0'15)、椎名 (0'14)、住吉 (0'17)、大橋 (0'13)、種市 (0'14)、北見 (0'12) が②を選んだ。

→13 は地図転換に備えるために先読みをしながら坂道を走って最後に階段を昇るだけの良心的なレッグ…のはずが、落とし穴があった。後半パンチすることになるコントロールが手前にあり、そこでミスパンチして地図を裏返してしまう事態が 10 件発生、ここでも失格者が続出してしまった。

[参考]

→11 (50m)

ベストラップ 0'12 小牧

→12 (30m)

ベストラップ 0'11 川島

→13 (70m)

ベストラップ 0'18 小牧

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧



### 13→14

勝負は後半戦へ突入する。最初のレッグがスタンドへ飛び込む難レッグであるのはWEと同様だが、スタンド中央最上段を目指すというさらに凶暴なレッグである。ルートのバリエーションは豊富で、大型階段を降りグラウンド左（西）へ向かうルート（①紫 310m）、右（東）へ向かうルート（②青 340m）、観戦者の後方を走るルート（③緑 370m）、階段を降りずに坂道で迂回するルート（④茶 390m）が有力である。グラウンド内とスタンドを結ぶ東端の階段が塞がっていることを読み取らないと②を選ばざるをえなくなり、遅れを取る。階段の閉鎖に気付いた瞬間に慌てるだろうが、冷静に読み直して真っ直ぐスタジアム出口を目指して裏から回り込んで欲しい。そうすれば遅れを取るといっても傷口は最小限となるだろう。

大石（1'36）岩井（1'37）椎名（1'37）北見（1'34）が①、大橋（1'37）種市（1'40）が②、小牧（1'25）住吉（1'52）が④を選択。川島（1'52）は前半①の動きをした後、スタジアム外へ出て前半の誘導路だった階段からアタックしている。

【参考】 ベストラップ 1'25 小牧



### 14→15→16

一旦入ったスタンドからまた退去を強いられる。14番コントロールに最も近い階段は出口が封鎖されている。しかも立体交差の構造で読み取りにくいいため、そこを降りようとする者はいないだろうし、もう一つ東の階段（①紫 80m）が最有力になるだろう。→14で西からアタックしてきて「誘導区間の階段が使える」と気付けば、その階段のルート（②青 80m）も浮上する。①を小牧（0'25）、大石（0'26）、椎名（0'26）、大橋（0'26）、種市（0'22）が、②を川島（0'22）、岩井（0'36）、北見（0'32）が選択。住吉（0'24）は東の階段を使ったが、脱出でスタンド最下段まで下ったようだ。これは下り過ぎなのだが、それでも好タイムである辺りに気合の充実が感じられる。

→16は次のルートチョイスレッグを生み出すためのつなぎのレッグ。

【参考】

→15（80m）

ベストラップ 0'22 川島 種市 根本啓介（筑波）

→16 (40m)

ベストラップ 0'11 種市 根本啓介 (筑波)



### 16→17→18

階段をそのまま降り続ける (①紫 150m) か、昇り返す (②青 140m) か。レッグ全体の登りは両ルートとも変わらない。タッチフリーでのレースであるから 16 からの流れ、18 への流れを考慮すると①が勝りそうだ。①を住吉 (0'44)、大橋 (0'45)、北見 (0'41) が、②を小牧 (0'38)、大石 (0'43)、川島 (0'37)、岩井 (0'42)、椎名 (0'47)、種市 (0'41) が選択した。

→18 の斜面登りはなかなか辛かろうが、さらにこの先にも、まだまだ登りが待つ。

[参考]

→17(140m)

ベストラップ 0'37 川島

→18 (110m)

ベストラップ 0'25 滝沢壮太 (新潟) 嶋崎渉 (東北) 江野弘太郎 (慶應義塾)



### 18→19→20

ルートを提出した 9 選手は全てスタンド西端の階段を使うルート (①紫 190m) を行った。(タイムは小牧 0'45 大石 0'52、川島 0'51、岩井 0'45、椎名 0'48、住吉 0'58、大橋 0'46、種市 0'50、北見 0'44。) もう一つ有力と思われたスタジアム外を回るルート (②青 200m) は魅力的に映らないようだ。①と②に分かれるよう、19 の位置はもう少し東にしたかったところだが、近接コントロール間の距離を制限するルールに阻まれた。

[参考]

→19(190m)

ベストラップ 0'44 北見

→20 (70m)

ベストラップ 0'25 滝沢壮太 (新潟) 嶋崎渉 (東北) 江野弘太郎 (慶應義塾)

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧



## 20→21→22

「またあの高さまで登るのか」というレッグ。→21 はグラウンド内から大型階段を目指すルート(①紫 240m)、観戦者の裏から大型階段へ向かうルート(②青 260m)、迂回ルート(③緑 280m)の三通り。いずれもきつく、WE以上に粘りが問われる終盤となる。①を小牧(1'01)、岩井(C型の壁を北から回って1'09)、椎名(1'06)が、②を大石(1'08)、川島(1'10)が、③を住吉(1'12)、大橋(1'18)、種市(1'14)、北見(1'08)が選んだ。有力選手たちは、本当に良い闘いをしている。

→22にも小さな罫を仕込んでいた。最短ルート(①紫 120m)を行くためには、細い方の道を使わねばならない。太い道のルート(②青 130m)は距離が延びるだけでなく、次の23番へ背を向けるアタックとなる。小牧(0'26)、大石(0'30)、川島(0'27)、椎名(0'29)、住吉(0'28)、大橋(0'25)、北見(0'27)が①、岩井(0'34)、種市(0'26)が②。すんなり細い道を目指した種市に対し、岩井は12番コントロールの位置から道を乗り換えている。そのための少考も要したと感じられるタイムである。

## [参考]

→21(240m)

ベストラップ 1'01 小牧

→22 (120m)

ベストラップ 0'23 江野弘太郎(慶應義塾)



## 22→23

地図上に二通りのルートを記入してみると形状上どちらが勝るかは一目瞭然であるが、実戦中に初見で読み取るのは難しい。ここまでに地図を広く読んできた選手、先読みをしてきた選手ほど「初見の煩い」から解放されていたことだろう。駐車場の北を回るルート(①紫 250m)が勝ちルートだが、最初が傾いた不整地の走行となるため、現地を見た上で却下し、大型階段の下へ向かうルート(②青 290m)を選んだ選手もいたかもしれない。①を大石(1'01)、住吉(1'01)、大橋(0'57)、北見(1'02)が、②を小牧(1'05)、川島(1'10)、種市(1'02)が選択。岩井(1'02)と椎名(1'

16) は②の大型階段下から分岐して西の下り口からグランドへ入った。この9選手で見ても勝ちルート率50%を下回っている。だが、彼らは勝ちルートを選ばなくても屈しない選手であることもタイムから分かる。

[参考] ベストラップ 0'48 江野弘太郎 (慶應義塾)

#### 23→24→フィニッシュ

最終コントロールへも選択が迫られる。「F」の東を回るルート (①紫 130m)、「F」と「U」の西に行くルート (②青 130m)、「I」と「C」の西に行くルート (③緑 150m) が考えられる。①を選んだものの、気を抜いて「U」の内側へ吸い込まれないようにしたい。①は岩井 (0'24)、大橋 (0'26) が、②を小牧 (0'25)、大石 (0'27)、椎名 (0'27)、住吉 (0'27)、種市 (0'22)、北見 (0'25) が選択。川島 (0'27) は①から②への乗り換えルート。

[参考]

→24 (130m)

ベストラップ 0'22 種市

→フィニッシュ (70m)

ベストラップ 0'09 名雪青葉 (筑波)

優勝タイム 小牧弘季 14分42秒1 ベストラップ合計 13分32秒

#### ME短評

観戦ガイドに「地図を広く見て大胆な迂回も選択肢にすると良い」「レースを通じてワーストルートを選ばないことが大事」と記した。上位者といえどもベストルートを選び続けているわけではない。それでも「信念の強さ」「落ち着き」「臨機応変さ」など、何らかのベストな持ち味を発揮しているように見える。ベストラップを連発する小牧選手からも、ベストラップなしで上位に食い込んだ大石選手や椎名選手からも、様々な教訓が引き出せそうだ。

#### <おわりに>

アドバイザーから「コース全体のコンセプトは？」と問われた時、「視野が広い者が勝つコース」と答えた。ある意味特殊なテレインでの開催となった今回のインカレスプリントでは、ルックアップを心掛けて地図から想像し切れない人工建造物の様子をいち早く視認し、想像を補っていかねばならない。地図上にも広く目を落として、迂回ルートを見つけたいところである。2マップ式なので、スタンドやグランドを眺め回しておけばおほほどその後役に立つはずだ。

ME優勝の小牧選手は、レース後のインタビューで「落ち着き」を強調していた。その落ち着きにより、終始広い視野を確保していたことがルートからも窺える。もちろん、落ち着けるのは走力があってこそ、である。

設定上、制約が多いテレインでも多様な課題を織り込むことを心掛けた。他に、なるべく失格を出さないことも目指していた。前者はまずまず達成されたと思うが、後者に関してはうまくいかなかった。先述したように、学生選手、特にトップ選手のスプリントレース時の追い込み方への理解が十分でなかったということだろう。猛省しなければならない。

もう一つ付け加えると設定者には「スタジアム観戦型スポーツとして映えるコースを」との狙いもあった。この点に関しては高評価してくださる方もいたようである。改善の余地があるコースだったが、選手たちの熱い闘いがこの評価をもたらしたと思う。当日の選手の走りを思い浮かべて興奮を蘇らせる上で、この資料が役立てば幸いである。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

## ▼3.2.1 男子選手権コース解説

## ルート図凡例

	1 位	大橋陽樹	東京 4
	2 位	小牧弘季	筑波 3
	3 位	種市雅也	東京 4
	4 位	北見匠	東北 4
	5 位	椎名晃丈	東京 3
	6 位	岩井龍之介	京都 4

## △→1

序盤からやや長めで、下草や藪の処理などが問われるレッグであった。

ここでトップラップを取った大橋選手はその後、一度も順位を落とすことなくトップを保った。

## 1→2

高低差の変化や辿ることのできる線状特徴物があまりなく、アタックはやや難しめ。

難易度が高めのレッグが続く中、大橋選手が再度トップラップを叩き出した。

## 2→3

岩が密集するエリアを視野に入れつつ進めば難しくなく、レース中、最も難易度が低いレッグであった。

## 3→4

序盤のロングレッグで、前半は大きく 2 ルートに分かれ、後半はさらにルートが分かれるが、いずれも大きな差はつかないと想定した。トップラップは左ルートを取った大橋選手であるが、前半に距離が長くなる右の道（しかも途中ショートカットして山塊を越えている）ルートを選択したにもかかわらず、1 秒差で 2 位ラップを取った小牧選手からは計り知れないスタミナが感じられる。

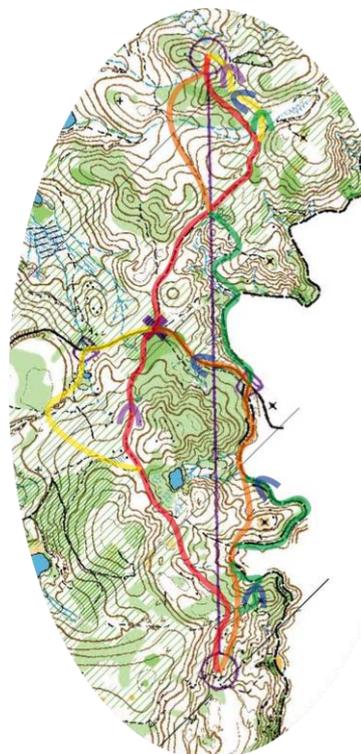
1→2 で 1 分半ほどのミスを犯した種市選手と岩井選手はこのレッグをうまくこなし、1 桁台まで順位を上げた。

## 4→5

直進してもよいが、柵沿いと尾根上を辿るルートのほうがやや易しめで走りやすい。

## 5→6

小径から外れた後の方向維持を疎かにすると濃い下草で速度低下するなど地味にタイムに影響するレッグ。



## 6→7

小径を使う場合は、その小径に乗るまでと外れてからの区間のナビゲーション負荷や走行可能度を考慮することを忘れないことが重要である。トップラップを取った種市選手はこれ以降順位を保った。



## 7→8

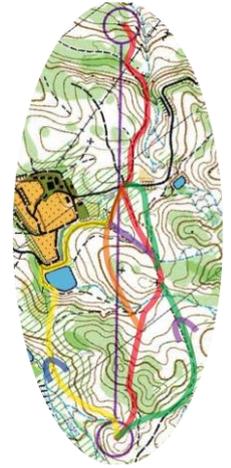
沢を横切った後にどこを登っているかを把握しつつ、登り切った後に進行方向を確認していないと思わぬミスにつながる可能性がある。2分ほどのミスタイムを計上した岩井選手は入賞戦線から一度離脱。

## 8→9

後半はルートが収束するものの、地形が緩く、藪で少し見通しが悪いためアタックに要注意。最初から下るルートを選択した種市選手、椎名選手はやや遅れをとった。

## 9→10

藪を避けて尾根を横切るタイミングが遅れると目的の沢に入れずにミスをしてしまう。尾根を横切るのが遅れてしまった岩井選手は再度入賞戦線から離脱。

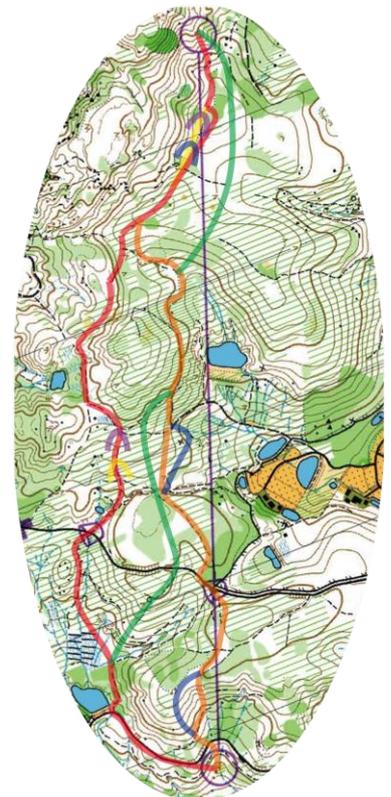


## 10→11

道をギリギリまで引っ張ることもできるが、やや深めの沢を切ることによって距離を大幅に縮めることができる。

## 11→12

直線距離で約 1.6km に及ぶ本レース最長のロングレグ。観戦ガイドでは道を使って山塊を大きく巻くルートも想定していたが、入賞選手は皆が山塊を辿るルートであった。ただ、その中でも、序盤はすぐに登るか、少し道を引っ張るか、中盤はレグ線左の大きなピークをどちらから巻くかでルートはさらに分かれていた。いずれにしても山塊ルートは道ルートに比較してナビゲーション負荷が高いため、最後まで気を抜くことはできなかったことだろう。入賞選手の中では、序盤に少し道を引っ張り、中盤にピークを左から巻くルートを選択した者が大橋、種市、岩井と半分を占めたが、タイムにばらつきがあった。



## 12→13

13番コントロールの高さに対して自分が高いか低いかを意識していれば、大きなミスには繋がらないが、ロングレグをこなした後で集中力が切れたのか、上位選手の中でも数十秒ほどのミスタイムを計上する者が少なくなかった。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

13→14

小径を外れた後は、頼りになる線状特徴物があまりなく、方角や周囲の特徴物との相対的位置などの情報に重きが置かれるレグであった。

先ほどのロングレグで好タイムを出して入賞に手が届いたかと思われた伊藤選手は 3 分以上の手痛いミスにより、あと一步で入賞を掴み損ねた。

14→15

下り基調でスピードは上がる分、藪やゆるやかな地形に手こずったのか、難易度はやや高めとなった。

小牧選手と同タイムでトップラップを叩き出した岩井選手は三度目の正直で入賞圏内に浮上。初のロング選手権クラス出走だった朝間選手は 1 分に満たないミスで大健闘むなしく 7 位に転落。

15→16

大半が道を走るだけであるが、種市選手を 9 秒離れた小牧選手を更に 10 秒離れた桃井選手の気迫は計り知れない。

16→17

障害物がないので素直に直進できるレグ。レグ線付近に建物があり、方向維持もしやすいため、終盤の走力がタイムにそのまま影響するといってもいい。

小牧選手が種市選手に 4 秒差

公式成績が 17 番コントロールまでなので、コース解説もここで終わりとする。

**▼3.2.2 女子選手権コース解説**

## ルート図凡例

	1 位	宮本和奏	筑波 3
	2 位	伊部琴美	名古屋 3
	3 位	小林祐子	東北 3
	4 位	香取瑞穂	立教 3
	5 位	増澤すず	筑波 4
	6 位	世良史佳	立教 3

△→1

ME の△→1 に比べて登りは少なく、椈の湖のトレイン状況を確認しつつ、出だしから落ちて着いてレースに取り組みたい。

1~3 位入賞であった伊部選手と宮本選手、小林選手は順調な滑り出しであった。

1→2

やや大きめの沢を詰めて登るだけに見えるが、1 つ南の沢に吸い込まれないように注意したい。以外にもレース中 3 番目に難易度が高いレグとなった。

増澤選手はここでトップラップを叩き出し、トップに躍り出た。

2→3

尾根線が広く緩やかで線として辿りにくいので、レグ線北東の傾斜変換をうまく活用したい。

宮本選手と伊部選手は少々苦戦したようだ。

### 3→4

途中から不明瞭な小径を辿る左ルートは、前半にややナビゲーション負荷がかかるため、距離が伸びるものの辿りやすい太い小径を使う右ルートを選択するものもありだが、さすがの入賞6選手は全員左ルートを選択。

宮本選手は約4分の手痛いミスにより一度入賞圏外へ。



### 4→5

ルートが分かれることもなく、藪が遠くからも視認しやすいこともあり大きくミスをする人もいない易しいレッグであった。

### 5→6

大きく2ルートに分かれたと思われるが、左ルートのほうが距離が短く、アタックも簡単か。上位選手にはあまり大きなミスは見られなかったが、難易度はやや高め。

3レッグ続けてトップラップを取った伊部選手はここで2位まで浮上した。連続ミスから脱した香取選手も入賞争いに加わった。



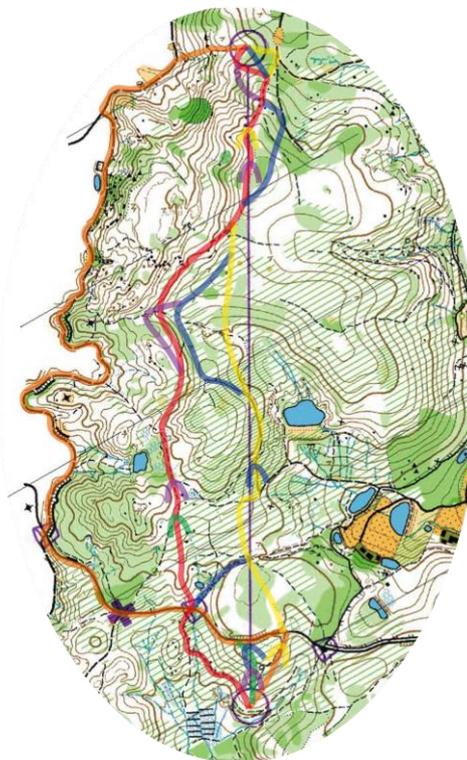
### 6→7

不明瞭な小径を乗り継ぎつつ、鞍部を二カ所越えるだけなので、あまり難しくはないが、岩崖で段々になっている湿地付近を越えた後、登る尾根を間違えないように注意。

### 7→8

勝負を左右するロングレッグ。MEと同様に広い尾根上を進むルートが最速かと思われたが、トップラップは左の太い小径を使う手堅いルートを選択した伊部選手で、トップに躍り出た。

入賞圏内で健闘していた永山選手はミスタイムとしては約1分ではあるもののレッグタイムとしては他の上位選手に後れを取り、入賞戦線が離脱した。



### 8→12

ME13→17と共通レッグ。

8→9はMEと同様に小径を外れた後のナビゲーションにてこずったのか、2番目に難易度が高いレッグとなり、入賞圏内の選手の間でも大きく順位が入れ替わった。

### 12→13

スペクテーターズレーンまでのつなぎレッグ。

### 13→14

観衆からの声援を浴びた後も冷静に競技を続けられるかが問われる。コントロールがある沢にスムーズに入れないと終盤の手痛いミスとなる。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

## 14→15

脱出方向を誤ると藪に時間を取られてしまう気を抜けないレッグ。

ここで2位ラップの増澤選手に15秒差をつけてトップラップを取った伊部選手が2位まで再浮上。一方、2位だった香取選手は2つ順位を落とした。

## 15→16

会場に向けて登るだけのレッグ。伊部選手、2位ラップの選手に6秒差をつける気迫のある登り。

## 16→◎

多くの選手が最後の力を振り絞る走りを魅せており、順位変動はなかった。

## ▼3.2.3 おわりに

MEは、最大ミスで1分以内に抑えて入賞する選手が複数名出ており、ロング・ディスタンス競技においても一度のミスがレースの成績を左右することが見て取れた。1位大橋選手と2位小牧選手の差は12秒だったが、ルート図を見てみると、異なるルートを選択していたレッグが少なくないことが伺えた。ルートによって差はつくものの、まずは選択したルートをミスなく最善のタイムで実行することが重要であることが感じ取れた。

WEは、優勝から4位入賞までのタイム差が40秒、6位入賞までが2分30秒以内に収まる大接戦であった。しかしながら、いずれの選手も分単位のミスを行っており、こちらもミスを可能な限り減らすことで更なる競技力の向上につながると考えられる。

最後に、本大会に関わったすべての方に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 3.3 調査依頼と提訴の回答

競技責任者 近藤 恭一郎

## ▼ スプリント競技部門

本大会において3件の調査依頼があり、その回答に対し1件の提訴があった。調査依頼のうち、2件が競技中の誘導区間に関する事項であり、こちらに対して提訴が行われた。1件は地図とコントロール位置説明の表記に関する事項であった。

以下に競技中の誘導区間に関する調査依頼とそれに対する提訴内容、その回答及び今後の対策について記載する。

## ▽ 競技中の誘導区間に関して

## ➤ 調査依頼

MEの5→6の誘導

## ① テクニカルミーティング資料について

・誘導区間の両側に壁やレーンがあり、その間を通ると誤認し、片側だけテープがある現地は資料と異なっている。

## ② IOF フットオリエンテーリング競技会規則 17.3に「ルートの誘導は、地図及び現場で明瞭に印を付けなければならない。」とあるが、

・地図において、壁・かいだんと重なり、視認しづらい。

・現地において、レーン状の青黄テープと短冊の赤白テープが重なり、レーンの青黄テープが目がいってしまう。また、手前に赤色のカラーコーンがあり、短冊の赤白テープが見えなかった。

以上の点により、競技規則に反していると考える。

## ➤ 調査依頼に対する回答

① 現地と図の構造は一致していないが、テクニカルミーティング資料において示した図は、あ

くまで模式図で示したものである。

- ② 地図においては、誘導区間を表す破線が壁や階段と重なり、誘導区間の表記が視認性の低い状態であったという判断は行っている。

現地においては、青黄テープで構成された人工柵に短冊状の赤白テープ誘導を付けた場合、人工柵に注目しやすい状態であった可能性は存在するが、短冊状の赤白テープについては密な間隔で付けられており、公園内に据え置きされた赤色カラーコーンの影響を考慮しても、短冊状の赤白テープの認識が出来ないとまではいえない（上記写真の現地の状況を参照）。また、テクニカルミーティング資料（スプリント競技） p.25 において、現地の誘導区間始点に「誘導ここから」の看板を置くことと告知しており、実際に現地の誘導区間始点には、競技者の走行方向に対して真正面から見える形で「誘導ここから」の看板を設置していたため、当該地点が誘導区間始点であるということは十分に確認できたと考える。

上記判断を総合して、改善の余地はあるものの、当該地点では競技者が誘導区間を明瞭に認識できる状態であったと判断する。以上の結果より、競技規則に反しているとはまではいえない、と実行委員会は考える。

➤ 提訴内容

調査依頼の回答に不服だったため、提訴を行う。現地の写真資料を見ても、「誘導ここから」の看板はコントロールより低く、認識しづらい。また、4→5に進むと短冊テープと重なってみえた問題のカラーコーンが写真では恣意的に省かれており、調査を行った側も明瞭ではなかったという考えを持っていると思われる。そもそも、学生トップレベルのシード選手が徐々に誘導を辿れなかったという事実が明瞭ではなかった証拠だと考えられる。改善の余地があるのなら、失格の取り消しを求める。

➤ 裁定委員による回答

現地において誘導の設営（テープ、看板、カラーコーン）が適切であるかを検証した。検証の結果、誘導は公正な競技を行うにあたって適切な範囲内で設営されていることを確認した。よって失格の取り消しは行わない。

➤ 設営の経緯、原因、今後の対策

●設営の経緯

本大会では競技場の備品である鉄製ポールと青黄色テープを用いて作成した人工柵（地図及びコントロール位置説明は壁で表記）をテレイン内に配置しており、当該の人工柵に誘導区間を表す赤白色テープを短冊状に配置していた。

●原因

- ① 当該の人工柵に誘導区間の一部が重なっており、人工柵を表す青黄色テープの上に誘導区間を表す赤白色テープが設置されていた。
- ② 誘導区間の開始点にあるコントロールに向かう競技者の動きが、誘導区間中の動きに対して直角に近い動線となっており、レース中の競技者からすると誘導区間が目に入りにくい状態になっていた。
- ③ 地図上で示されている誘導区間が、誘導区間終了後のレグ線と区別が付きにくいような表記になっており、レース中の競技者からすると地図上で誘導区間がどこにあるかを瞬時に把握することが難しい状態になっていた。

●今後の対策

- ① 今回の人工柵は鉄製ポールの上部に青黄色テープを巻いて作成しており、柵の中間部にはテープを付けていないことから視覚的に壁という認識がしづらかった。そのため、今後は青黄テープと誘導区間を混在させるようなコース設定を極力避けることが望ましい。また、誘導

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

区間を作成する際は、レーン状の区間とするなどして競技者から視認しやすい誘導区間となるような対策を取るべきである。

- ② 誘導区間を設ける際に、直前の競技者の動きを想定して誘導区間が視線に入りやすいようなコースセットを心掛けるのが望ましい。
- ③ 誘導区間を始めとして、地図の表記は各責任者が何度も地図やコースの確認をしているとその表記に慣れてしまい、競技者の目線としての表記確認が難しくなる。地図印刷までの間に、地図を全く見たことのない運営者に事前に確認してもらい、先入観のない視点で地図を確認する機会を設ける必要がある。

①～③について、大会で使用できる資材、テレインにおいて使用可能な範囲、試走の回数など、事前の準備期間がどれだけ余裕のある日数であるかが極めて重要である。

### ▼ ロング・ディスタンス競技部門

本大会において1件の調査依頼があり、その回答に対し3件の提訴があった。以下に調査依頼とそれに対する提訴内容、その回答及び今後の対策について記載する。

#### ➤ 調査依頼

MEクラス18番コントロールの西にあるオープン角からのアタックについて、地図表記よりも実際には南に角があると考えます。ISOM2017の「2.7 精度」の項より、「特徴物はコンパスと補足を用いる競技者が地図と現地の対応関係に違和感を抱かないだけの位置を満たさなければならない」とありますが、上述のオープンの角の位置への違和感は多くのME参加者が抱いております。

したがって、18番コントロールの存在により、偶然性の非常に強いレッグ(17→18)が生まれているのではないかと考えられるので当該位置の地図精度について調査を依頼します。

#### ➤ 調査依頼に対する回答

オープン角の位置精度については、現地を調査した結果、問題ないと判断しました。一方で、18番コントロールの設置位置が地図に表記のない穴に誤って設置されており、正しい位置から15m程度北にずれていた。

この結果から、18番コントロール以降については、競技の公平性を担保することが出来ないと判断し、17番コントロールまでの積算タイムを正式な記録として採用する。

#### ➤ 提訴内容(1件目)

調査依頼に対して疑義があります。

18以降のレッグが全く考慮されないのは問題であると考えます。

よって、当該レッグのタイムのみを除いたものを正式な成績として扱うことを求めます。

#### ➤ 提訴内容(2件目)

ME成績の処理方法については、18番コントロールを含むレッグ(17→18、18→19)のみを除いたタイムを正式記録とすべきではないかと考えます。

#### ➤ 提訴内容(3件目)

18ポ以降を全て記録を無視するのは公平性を欠いているのではないかと「17→18レッグだけを省く」が、全員が同じ状況であったということを踏まえると公平であったといえるのではないかと以上の理由で調査依頼の回答に提訴する。

#### ➤ 裁定委員による回答

当該レッグのみを除外した成績処理を行うことに対し、公平性の検証を行った。結果、18番コントロールの設置ミスによる後続区間への身体的・精神的影響により、上記の成績処理は公平性に欠

けると判断した。

よって、17 番コントロールまでの記録を公式成績とする。

▶ コントロール設置ミスを経緯、原因、今後の対策

● コントロール設置ミスを経緯

本大会でのコントロール設置スケジュールは以下の通りである。

【大会 1 週間前（11/3）に実施】

会場周辺及びラジオコントロールを除く山間部のコントロール設置

【大会当日（11/10）に実施】

ME18 番コントロール（125）を含む会場周辺の 7 つのコントロール及びラジオコントロール

【設置の流れ】

会場周辺のコントロール位置が一般住民の住宅周りであったことを鑑みて、会場周辺のコントロールは大会当日の朝に設置する計画とした。コントロールの設置は競技責任者とイベント・アドバイザーが担当し、同時に当日の一部エリアにおけるコントロール動作確認及びラジオコントロールの設置と動作確認も平行して実施する予定であった。ラジオコントロールの設置/動作確認及び一部エリアの動作確認を終え、会場に戻る道中で会場周辺のコントロール設置を 2 人で行った。

● 原因

今回設置ミスが発生した原因として、以下の要因が挙げられる。

- ① 競技責任者及びイベント・アドバイザーが担当していたコントロール動作確認及びラジオコントロール設置/動作確認に時間がかかり、会場周辺のコントロール設置に十分な時間が残っていなかった。
- ② ME18 番コントロール（125）周辺の植生が変化しており、該当の特徴物（穴）を探すのに時間を要した。
- ③ コントロール設置位置にあらかじめテープなどの目印をつけていなかった。
- ④ 過去に実施した試走において、競技責任者及びイベント・アドバイザーは該当コントロールを含むコースとは別のコースの試走を行っており、当日設置までの期間中に特徴物の位置を正確に把握していなかった。また、1 週間前準備におけるコントロール設置では該当のコントロール位置周辺のエリアは設置予定になかったため、現地確認を行っていなかった。
- ⑤ 正しい位置にある特徴物から 15m ほど北側に地図上で表記されていない凹んだ地形があり、それを該当の特徴物（穴）と勘違いしてしまった。
- ⑥ ME クラスは事前に申し出があった 2 名に前走を依頼して実施してもらったが、コントロールの通過確認が正常に行われていたことだけを確認し、各コントロール位置に問題がなかったかなどのヒアリングを怠っていた。

● 今後の対策

- ① 当日のタイムスケジュール設定の段階で、競技責任者とイベント・アドバイザーの業務は当日のコントロール設置のみにとどめ、その他の業務は可能な限り他の人員に任せるような役割分担を取るようになる。
- ② 競技責任者及びイベント・アドバイザーは 1 週間前設置の段階で設置予定のコントロール位置を全て確認しておく。可能であれば、過去の試走で該当のコントロール位置を把握している人を同伴する。
- ③ 試走の段階でスズランテープを設置するのが望ましいが、渉外上の都合などでテープを放置しておくことが難しい箇所も存在するので、トレインに応じて対処する。
- ④ 今回のような地形的特徴の少ない場所でのコントロール設置の際には、測量用巻き尺を用意するなどしてコンパス以外の要素で視覚的に設置位置を認識できるような対策をとる。
- ⑤ 前走を実施する場合、前走者から競技を行う上でコントロール位置やトレイン内部の状態につ

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

いて適正であったか等の詳細をヒアリングする。

今回は人員の都合もあって、本来であれば競技責任者及びイベント・アドバイザーが本人たち以外にも役割分担できた業務を請け負っていた事情があり、結果として本来最優先すべきコントロール設置及び確認に十分な時間が割けなかった面がある。

また、あらかじめコントロール設置箇所を実際に確認しておけば設置ミスが生じる可能性はより低くなったと考えられる。コースが確定した段階で現地を確認する機会を作ることが望ましい。

以下に、該当コントロール位置の周辺地図及びコントロールが誤って設置されていた箇所を示す。



該当コントロール位置周辺地図及び誤って設置されたコントロール位置

## 4

# 大会運営報告

[目次](#)[ご挨拶](#)[公式成績](#)[入賞者コメント](#)[競技結果と解説](#)[大会運営報告](#)[イベント・アドバイザー報告](#)[将来への提言](#)[選手権の部スタートリスト](#)[大会役員一覧](#)

### 4.1 大会企画の経緯

大会実行委員長 椎名 麻美

#### ▼4.1.1 開催地の決定

日本学連副会長も務める(有)ヤマカワオーエンタープライズ (以下、YMOE 社と呼称) 山川克則氏が提案し、実行委員会結成以前に、開催地が決定されていた。(日本学連第 69 回総会議事録を参照)

#### ▼4.1.2 実行委員会の発足

2019 年 3 月下旬に山川氏より実行委員長 椎名麻美に対し、実行委員長を行わないかのご提案いただき、承諾。その後、実行委員長と人事担当である戸上直哉は各役員へお願いに回った。その結果、概ね主要役員が大会約 5 か月前である 2019 年度 5 月末までに集結した。地図作製業務・渉外業務・地図印刷業務については YMOE へ業務委託を行った。

#### ▼4.1.3 詳細なトレイン選定

##### ▽スプリント競技部門

上述の通り、実行委員会発足以前からトレインの選定が行われた。中津川公園は、休日は公園一般利用客が多い。そのため、施設より使用禁止とされている範囲(道路挟んで北側の大部分)も多く、利用検討の当初から非常に多くの制約が発生しており、スプリント競技を実施するにあたって十分適切とは言えなかった。しかし、既に渉外が進んでいる状況であり、実行委員会が発足した時点でトレイン変更をすることは不可能であった。そのため、様々な制約のもと使用エリアを限定し、コースに工夫を凝らすことで開催するに至った。

##### ▽ロング・ディスタンス競技部門

競技を開催するに値する十分な広さを有することを念頭に、トレインの選定が行われた。旧図エリアの北西部を除く概ね全域と、会場南西エリアを一部拡大し使用した。前年に同トレインで全日本大会が開催されており、公平性などの観点について議論があったが、インカレを実施できる大規模な会場を有すること、スプリント同様に既に渉外が進んでいる状況であったことから、当トレインで開催するに至った。

### 4.2 活動実績

運営責任者 遠藤 匠真

#### ▼4.2.1 運営・組織体制

本大会では従前の秋インカレ運営体制(フランチャイズ制)ではなく春インカレ同様の実行委員会形式をとり、一部業務については(有)ヤマカワオーエンタープライズ社(以下 YMOE)への業務委託契約を締結した。

運営体制および職務分担は以下の通りである。

[運営体制]

主催：日本学生オリエンテーリング連盟

主管：実行委員会(東海・関西在住者を中心とした構成)

[業務分担]

実動部隊：実行委員会、イベント・アドバイザー

地図作成：YMOE(学連外注先)、宮西山野精図(YMOE 下請)

各種渉外：YMOE(地域、施設、トレイン等)、実行委員会(後援・協賛申請等)

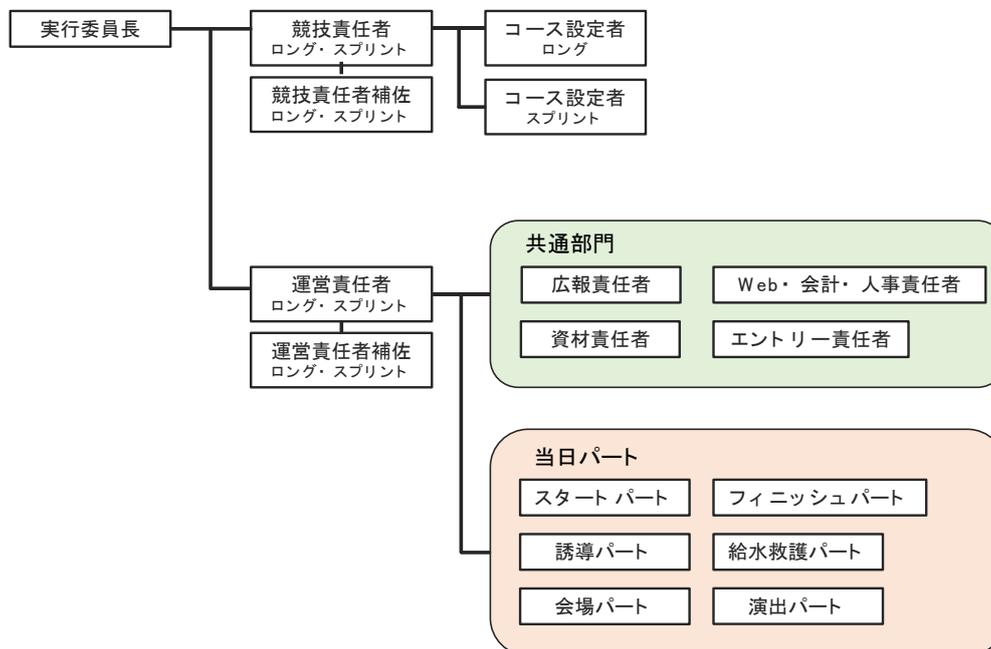
また、本大会では実行委員会を代表する実行委員長の下、ロング・ディスタンス競技、スプリント競技の両部門を兼務する形で運営責任者を設けた。両者の役割分担については、以下の通りとし

た。

実行委員長：対外的な交渉・広報業務

運営責任者：イベント運営に関わる内部役員の管理業務

競技面は競技責任者のほか、コース設定者、イベント・アドバイザーが担当した。全容を下図に示す。



#### ▼4.2.2 運営の全般計画と実施状況

本大会運営にあたっての全般計画とその実施状況概略を下表に示す。

年	月	当初計画	実施状況・備考
2019	5	要項 0.9 公開 主要役員確定 主要役員電話会議 要項 1 公開	
	6	予算案作成	
	7	要項 2	
	8	併設大会要項	
	9	後援・協賛申請	
	10	要項 3 2 週間前準備	学連からの要請に基づき UNIVAS CUP 対応を実施した。 2 週間前準備に先立って主要役員会議を実施した。
2019	11	1 週間前準備 大会当日	
	2020	2	会計 報告書公開

#### ▼4.2.3 実際の運用と反省、提言

上記内容に関して、実際の運用とそれに伴う反省及び提言を示す。なお、競技用地図の作成次第については 4.3 項を参照されたい。

人事

[役員選定]

本大会の役員選定、とりわけ立ち上げ期の幹部役員確定は例年と比較しても非常に遅れの目立つ

結果となった。特にイベント・アドバイザー、競技責任者、運営責任者人事が日本学連理事会に提出されたのは大会まで半年を切った5月下旬であり、インカレ実施規則の規定を逸脱していることはもちろん、業務の残り時間の点で厳しいスタートとなった。本大会の開催地自体は比較的早期に内定（日本学連第69回総会議事録を参照）していたことを考慮すれば、遅くとも年明け時点での役職就任打診は可能であったと思われる。インカレ担当理事を筆頭に学連側の主体的かつ適切なコントロールを求めたい。

また、幹部以外の役員については人事責任者ほか幹部役員の伝手を利用して募集・選任したが円滑には集まらず、全ポストの選任を完了したのは6月下旬であった。背景の一つとしてここ数年の中部・関西地区におけるインカレラッシュ（2016冬、2017秋、2018秋、2018冬）は無視できない。元来東海・関西地区のOB/OG層は関東地区のそれと比較して決して厚いものではなく、インカレが連続すれば特定の人材に負荷がかかるのは不可避である。当然インカレの開催地は多様なパラメータの兼ね合いで決まるものであり、中部地区で連続開催となることを一概に問題視するものではない。しかしながら本来自主性に基づくべきインカレ運営に「参加せざるをえない」という状況は、有り体に言えば搾取と捉えられるリスクもあることを敢えて記しておく。

#### [役職負荷の増大]

本大会ではイベント・アドバイザー、競技責任者がロング・ディスタンス競技、スプリント競技両部門を兼任したほか、ロング・ディスタンス競技コース設定者、Web責任者、会計責任者、人事責任者を同一人物が担当している。このため当該役員には過度の負担が生じており、人的資源に余裕のない体制であった。また、こうした属人化状態のもとで万一当該役員に病気・事故等のトラブルが生じていれば致命的事態であり、潜在的に高リスクな状況となってしまった。これは根本的には上述の時間的制約に起因するものであるが、本大会では競技面の実働要員が十分に確保できておらず、責任者級役員まで実務に追われた点は否定できない。立ち上げ期の人事戦略やその後の軌道修正が不十分であったことは大きな課題と考える。

#### プロジェクト進行

##### [スケジュール管理]

本大会は上述の事情から運営の基幹を担う役員すら着任が遅く、戦略的なマネジメントというより差し迫ったクリティカルパスへの場当たりの進行とならざるをえなかったが、イベント・アドバイザーをはじめとしたインカレ運営要職経験者による適切な助言のもと、致命的なトラブルは回避しつつ進捗を創成することができた。不十分なマネジメントの下で各役員の能力値に頼る形となってしまったことは運営責任者として痛恨であるが、流動性の高い一度限りの実行委員会かつ時間的余裕も無いという状況においてはこれも解の一つと言える。

なお、本大会ではカンバン方式プロジェクト管理ツールの導入を試みたが意義と使用法の伝達が十分でなく、自然消滅した。しかしながら昨今のインカレ運営で普及しつつあるSlack等のチャットツールは情報の集積場としては不適であり、決定事項を集約するWebベースのツールは本来不可欠なものとする。今後の大会では効率化を企図した施策・ツールによるスマート運営を期待したい。

##### [渉外業務の進捗状況管理]

本大会はYMOEが土地勘ないし人脈を構築済のいわゆる「渉外資産」に頼って企画された。したがって渉外業務はそのほとんどをYMOEに委託しており、渉外面で大きな問題は生じていない。ただし実行委員会として渉外の進行を管理するという面では課題が残ったと考える。

一般に渉外活動に際しては「口約束はとりつけたが確定ではない」とか「先方の主張が当初と様変わりした」など進捗状況を不安定たらしめる要素が多く、担当者からの断続的な報告のみでは流れが掴みづらい。

既存の渉外資産を用いた本大会ではこの傾向が顕著であり、逐次変化する状況と渉外担当者の暗黙知を実行委員会側（とりわけ主要役員）が把握しきれていなかったために大会直前期の確認事項

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

が増大し、作業効率悪化につながった。こうした管理業務は本来であれば運営責任者の負うべきところであり、その任を充分になし得なかったのは遺憾である。しかしながら端的でない形で散発的かつ大量に提示される情報から渉外状況を適切に抽出するには多大なリソースを要するため、人的余裕がある大会では専任の渉外担当者を設置するのが理想的と考える。

その他

#### [UNIVAS CUP]

本大会は大学スポーツ協会（UNIVAS）が本格的に活動を開始して以降初のインカレであり、競技横断型ポイント制対校戦（UNIVAS CUP）対象大会となった。これに伴って大会動画撮影班が派遣されたため、撮影スポット・手法・機材等について実行委員会が対応した。

撮影班とは入念に打ち合わせを行い、注意事項は適宜明確に伝達したものの、大会当日にはドローン撮影許可空域やカメラと選手との距離感

といった点で認識の齟齬が発覚し、選手権クラスの開始までに再度認識の擦り合わせを実施した。

渉外面のデリケートさや競技に求められる集中度といった感覚をオリエンティアでない方へ伝える困難さは改めて述べるまでもないことであるが、この撮影事業が今後も継続されるなかで実行委員会と撮影業者双方にノウハウを蓄積し、より円滑な撮影を志向することが不可欠であると考え。加えて、本件の成果物であるところの動画の評価は学生各位並びに学連に委ねられている。UNIVASへ建設的な意見・感想が寄せられることを期待したい。

なお、今回の撮影に伴って競技公平性の観点から懸念の生じる事例が報告された。詳細は 4.4.4 項を参照されたい。

### 4.3 競技面の準備経緯（スプリント競技部門）

競技責任者 近藤 恭一郎

#### ▼4.3.1 競技地図の作成

計画

- ◇ 競技地図作製は YMOE 社に委託
- ◇ 8月31日：競技エリア第1版締め切り
- ◇ 9月10日：第1回試走
- ◇ 9月29日：競技エリア第2版締め切り
- ◇ 10月12日：競技用地図印刷レイアウト締め切り
- ◇ 10月13日：印刷レイアウト確認
- ◇ 10月20日：コース確定
- ◇ 10月22日：コース含む完成地図データ確認
- ◇ 10月26日：競技用地図納品
- ◇ 10月26-27日：一般/併設クラス現物確認、チャック付きビニール封入
- ◇ 11月3-4日：選手権クラス現物確認、シーリング

実施

- ◇ 第1回試走（9月10日）から完成地図データ確認（10月22日）までは、slack上で要修正箇所の指摘と競技用の修正希望箇所の伝達を行った。（途中何日間かセッターとEAが現地確認を行っている）
- ◇ 10月26日に最終版コースが確定。
- ◇ 2週間前準備（10月27日）までに一般/併設クラスの競技用地図を、1週間前準備（11月3日）までに選手権クラスの競技用地図を YMOE 社が提出。提出後、slack上及び現物の確認と修正箇所の指摘。
- ◇ 11月4日に全クラスの競技用地図納品。
- ◇ 一般/併設クラスの現物確認及びチャック付きビニール封入を2週間前準備（10月27日）で実施。
- ◇ 選手権クラスの現物確認及びシーリングを1週間前準備（11月3日）で実施。

## 提言等

本大会では締結した協議契約における実施計画に従い印刷までの計画を作成した。しかしながら、事前の渉外報告で把握していた競技使用可能エリアが実際のものとなっていたことで第1回試走でのコースの大幅修正が行われたり、YMOE社の連絡遅れなどによる競技用地図の作製の遅れが生じた。また、一般/併設クラスの地図は10月27日に現物確認が完了したものの、選手権クラスの地図に関しては両面マップを採用したこともあって地図やコントロール位置の表記に二重のチェックを講じる必要があり、結果として11月3日に選手権クラスの地図の現物確認が完了した。

また、本大会で地図印刷を行ったYMOE社と運営側が所有するソフトウェアの対応が出来ておらず、運営側でコントロール記号や数字の位置等の調整を行ったデータをYMOE社が再度作成し、それを運営側が確認するという手順となっており、運営負担の増加につながった。

### ▼4.3.2 コースの設定

#### 計画

本大会は岐阜県中津川市中津川公園にて実施した。本大会では下記のような制約がコース設定時に存在した。

- ◇ テレイン南西部の遊具エリアへの侵入禁止
- ◇ テレイン北部の東美濃ふれあいセンター東側の駐車場及び貨物搬入エリアの進入禁止
- ◇ テレイン北部の東美濃ふれあいセンター西側の広場の進入禁止
- ◇ テレイン北部の東美濃ふれあいセンター南西側の一般用駐車場の進入禁止
- ◇ テレイン内にサッカーコート、野球場、テニスコート及び養生地が点在している
- ◇ 競技者来場用の駐車場がテレイン内に存在している
- ◇ 東西に伸びる車道がテレインを南北に分断しており、北部⇄南部の移動が困難

これらを考慮した結果、競技エリアとして使用可能なエリアはテレイン全体に比べて小規模な範囲となってしまっており、非常に狭いエリアでの実施とせざるを得なかった。選手権の部の競技範囲に関しては、陸上競技場のスタンドやトラック内部に設けた人工柵を用いたコースを設定する提案が行われたため、テレイン南側を中心とした2マップ方式とした。併設の部の競技範囲に関しては、コース距離の都合と競技中の時間にスタンドやトラックの設営を行う必要があったため、選手権の部で使用する陸上競技場を除いたテレイン全体を1マップで使用した。

#### 実施

計画に従いコース設定を進めた。フィニッシュ位置は演出やコース回しの都合上競技場内のスタンド前とした。スタート待機所は当初東美濃ふれあいセンターの貨物搬入エリア内としていたが、渉外の都合上使用出来なくなったためサッカーコートの一部を選手権待機所とし、そこから数分の位置をスタート地区とした。

コース設定に関しては制約の多い競技エリアでスプリント競技を実施するために、以下の事項を採用した。

男子選手権と女子選手権はスタート時刻を1分ずらして実施し、コースの大半は同一とした。

- ◇ マップ交換制の採用。
- ◇ 優勝設定時間を15分に設定。
- ◇ 大会駐車場を競技エリアとして採用。
- ◇ 併設の部と選手権の部で、応援席の位置を含めた会場レイアウトの大幅変更。
- ◇ ルートチョイスを生み出すため、ハードルとテープを用いた人工柵による障害物の設置。

## 提言等

コースはテレイン上の制約が多い中で選手権者を決定するにふさわしいものになったと考えている。今後スプリント競技部門を実施していく上で、特に意識すべき点を挙げる。

- ◇ 1回目の下見では公園管理者の代理の方と話を言い、競技に使用しても問題のないエリアの算

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザ一報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

定を行った。しかし、試走の後に YMOE 社を通じて管理者の方と話をしたところ、事前に許可を頂いていたにも関わらず競技で使用不可能になったエリアが多数存在し、コースを大幅に組み直さざるを得なくなった。競技で使用可能なエリアとそうでないエリアの確認は初期段階において管理者と直接行うのが望ましい。

- ◇ 競技中誘導や人口柵など、現地に追加で設置するものに関しては事前に作成した上で可能であれば試走を行い、競技中の視認性を確認すべきである。

### ▼4.3.3 安全対策

#### 計画

本大会のテレインでは以下の点を考慮する必要があった。

- ◇ 公園の一般利用者の存在
- ◇ テレイン中央を通る車道の存在
- ◇ 養生地や遊具エリアなど複数の立ち入り禁止区域の存在
- ◇

そこで、以下のように安全対策を行った。

- ◇ 公園一般利用者の駐車場を立ち入り禁止区域として設定
- ◇ 車道を横断する箇所を 1 箇所のみとし、簡単なレグでその区間を横断させるようなコース設定
- ◇ 競技者が横断する箇所や駐車場、侵入が想定される立ち入り禁止区域周辺の役員配置及び注意喚起

#### 実施

本大会で生じた安全上の問題を以下に記す。

- ◇ 選手権クラスの競技中に、立ち入り禁止区域である駐車場や養生地エリアに侵入する競技者がいたという報告を該当のエリア役員から多数受けていた。

#### 提言等

本競技では一般利用者との接触事故は発生しておらず、また立ち入り禁止区域への侵入は多数見られたもののエリアの現状復帰を妨げるような事態にはなっていないことから、競技者が比較的高い安全意識をもって競技に臨んでいたといえる。

## 4.4 競技面の準備経緯（ロング・ディスタンス競技部門） 競技責任者 近藤 恭一郎

### ▼4.4.1 競技地図の作成

#### 計画

- ◇ 競技地図作製は YMOE 社に委託
- ◇ 7月 20-21 日：第 1 回試走
- ◇ 8月 31 日：競技エリア第 1 版締め切り
- ◇ 9月 22 日：第 2 回試走
- ◇ 9月 29 日：競技エリア第 2 版締め切り
- ◇ 10月 12 日：競技用地図印刷レイアウト締め切り
- ◇ 10月 13 日：印刷レイアウト確認
- ◇ 10月 20 日：コース確定
- ◇ 10月 22 日：コース含む完成地図データ確認
- ◇ 10月 23 日：完成地図データ提出
- ◇ 10月 26 日：競技用地図納品（一般クラス）
- ◇ 10月 26-27 日：2 週間前準備にて一般/併設クラス現物確認、チャック付きビニール封入
- ◇ 11月 3-4 日：選手権クラス地図印刷、1 週間前準備にて選手権クラス現物確認、シ

## ーリング

### 実施

- ◇ 第1回試走にて、仮組みされたコースの試走と、現地の植生や地図表記の確認を行った。
- ◇ 第2回試走にて、第1回試走で出た修正点を反映した地図の確認と修正されたコースの試走を現地にて行った。
- ◇ 10月22日に最終版コースが確定。
- ◇ 2週間前準備（10月27日）までに一般/併設クラスの競技用地図を、1週間前準備（11月3日）までに選手権クラスの競技用地図を YMOE 社が提出。提出後、slack 上及び現物の確認と修正箇所の指摘。
- ◇ 11月3日に全クラスの競技用地図納品。
- ◇ 一般/併設クラスの現物確認及びチャック付きビニール封入を2週間前準備（10月27日）で実施。
- ◇ 選手権クラスの現物確認及びシーリングを1週間前準備（11月2日）で実施。

### 提言等

競技用地図の作製及び検品に関しては、スプリント競技部門と同様に遅れが生じた。

#### ▼4.4.2 コースの設定

##### 計画

本大会は岐阜県中津川市栴の湖にて実施した。詳細に関してはロング・ディスタンス競技コース解説をご確認されたい。

##### 実施

渉外の都合により本大会の会場が栴の湖総合グラウンドに決定していたので、そこからフィニッシュ位置、スタート待機所、スタート地区を決定し、その後に細かいコース設定に進んだ。競技責任者としてはコース設定者が希望するコースを実現できるか否かの確認を主に行った。また、第2回試走においては事前にフラッグを設置して実施し、より本番に近い環境で試走を行った。

### 提言等

本大会は、2018年全日本ロングを始めとして長年使用されてきたトレインであったため競技責任者、コース設定者ともに競技エリア内をある程度把握しており、競技エリア選定のための下見などに労力を割くことなくコース設定を進めることが出来たと考えている。しかし、本大会において男子選手権クラス18番コントロールの設置ミスが発生しており、トレイン全体の把握に際して問題があったといえる。詳細は「調査依頼と提訴・ロング・ディスタンス競技部門・コントロール設置ミスの経緯、原因、今後の対策」を参照されたい。

#### ▼4.4.3 安全対策

##### 計画

本大会のトレインでは以下の点を考慮する必要があった。

- ◇ テレイン内に東西に伸びる車道を横断する際の安全性の確保
- ◇ 一部近隣住民から指定された侵入禁止エリアに接近する競技者への配慮

##### 実施

- ◇ 道路横断にあたっては現地に誘導区間を設けることで対処したが、車の通行を完全に阻むことはできないためストリーマー状ではなく短冊状にテープを設置し、車の確認は競技者各自で行ってもらった。
- ◇ 侵入禁止エリアの近辺は選手権クラス誘導区間の開始位置かつ一般クラスのゴール位置となっ

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

ており、多くの運営者及び競技者が通過することが予想された。そのため誤って該当エリアに侵入することのないようにエリア全体を青黄テープを用いてストリーマー状に巻き付けることで運営者及び競技者への周知をはかった。結果として近隣住民から侵入禁止エリアに関する苦情は来ておらず、トラブル防止策として十分な結果を果たしたといえる。

#### 提言等

誘導区間に関して、現地に監視員を配置して車が来た際には運営判断で競技者を制止するという案もあったが、運営判断による制止によって競技者のタイムに影響が生じると考えられたため、車道の横断に際しては競技者各自の判断で行ってもらうこととした。

#### ▼4.4.4 大会終了後に実行委員会宛てに寄せられた意見について

今回、日本オリエンテーリング学生連盟から大学スポーツ協会(以下 UNIVAS)から本大会の取材の申し出があり、ドローン及び現地スタッフによる大会競技中の動画撮影を実施した。その際に競技の公平性を担保する上で具体的な対応策を考える必要がある事例が報告されたのでこの場で説明および回答を行うものとする。

#### 経緯について

1. 誘導区間終了後から会場北部のオープン地帯において、UNIVAS スタッフの数名が競技中の選手の撮影を目的としてドローンを飛行させていた。なお飛行エリアは実行委員会が指示したものである。
2. 当該エリアを通過した選手 A が、ドローンの駆動音を蜂の大群の羽音と勘違いし、近くにいた選手 B に「蜂がいます」と伝え、その後ブーンとした大きな音が聞こえ、蜂の大群だと勘違いした両選手はその場を離れた。
3. その後、先程の音がドローンの音だと気づいた選手 A が選手 B にその旨を告げ、2人で競技を再開した。

上記の出来事によって、外部からの影響による競技の公平性を欠くような事態が生じていたと考えられる。本件における原因と考えられ得る今後の対策を記す。

#### 原因

- ◇ 要項 3 にて UNIVAS による大会競技中の映像記録を行う旨を記載していたが、ドローン使用に関する注意喚起は行っていなかった。
- ◇ UNIVAS に対してドローンの機材スペック(サイズ、飛行速度、どの程度音が出るか等)の確認を行っていなかった。

#### 今後の対策

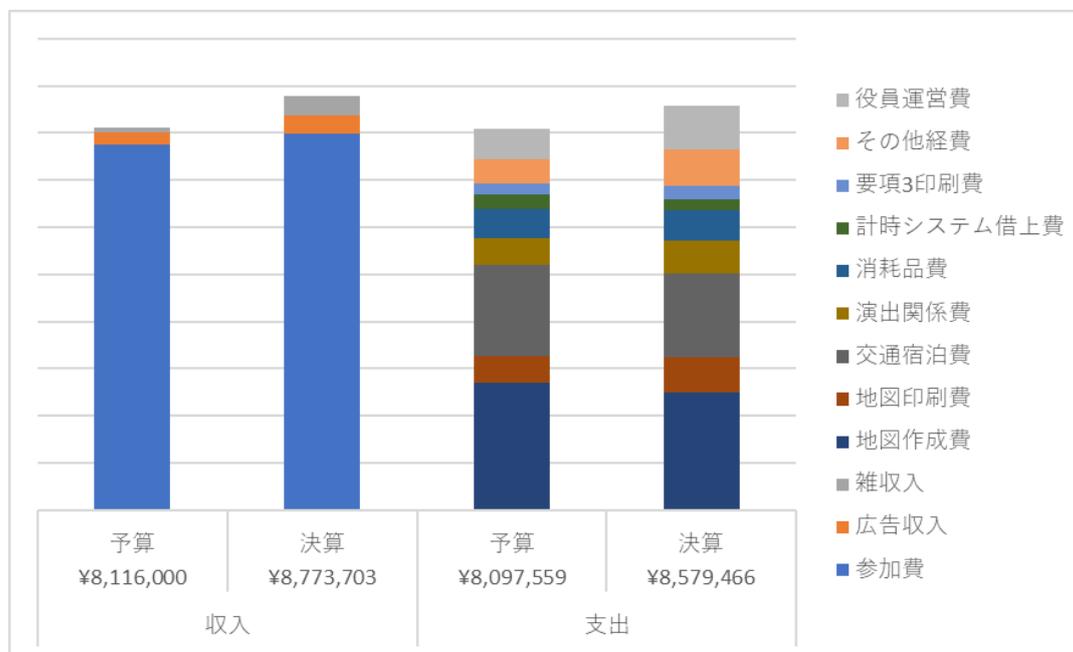
- ◇ 要項 3 あるいは遅くとも公式掲示板などでドローンの使用を競技者に対して通知する。
- ◇ ドローンの機材スペックを事前に確認し、競技に影響が生じ得る可能性があれば極力使用を控えるか、影響の少ない機材を代わりに使用するような形をとる。

今回、ドローンの使用によって競技の公平性を損ないうる事例が生じてしまったが、オリエンテーリングの競技中の動画を外部に公開することは本競技が広く普及されるという意味でも非常に価値のあるものだと考える。今後は競技者の視点を第一に安全と公平性を担保する対策をしっかりと行ったうえで利用していくことが望まれる。

本項では、本大会における会計業務の結果と行動についての報告、および本大会を通して得られた今後への展望を記す。

#### ▼4.5.1 簡易決算報告

まず初めに、本大会において、策定した予算と2月10日時点での決算の結果概略を以下に報告する。この結果は、スプリントおよびロングの両競技部門をまとめている。以下項目では、この結果を中心に、例年との比較を交えながら簡単な解説を行う。



#### ▼4.5.2 予算案の策定

会計的に大会を成功させるためにも、予算案策定時点での十分な検討は必要不可欠である。例年と比較し、本年度で注力したと思われる内容を中心にし、予算案の策定経緯について以下で述べる。

##### ▽支出項目の検討

支出項目のうち最も割合が大きい地図作成費を見積金額で固めつつ、例年の予実金額を参考にその他の項目の予算を設定した。

地図作成費の次に割合が大きい交通宿泊費については、それぞれの試走や事前準備、大会当日の上限人数や宿泊施設を想定して予算を設定し、大きく上振れして収支に悪影響を及ぼさないよう努めた。

運営者への負担を増やさないためにも必要以上の経費削減は行わなかった。

##### ▽役員運営費の見直し

大会運営人材を確保し、今後のインカレを継続するための「ボランティア体質の脱却」が委員会内での目標の一つであったため、大会役員が活動する上での運営費についての見直しも同時に図った。

試走や事前準備、大会当日の日当(昼食費)を昨年度から増額したが、収支に余裕があった場合のみの適用という条件を付けたため、増額分は予算には計上しなかった。

また、昨年度に引き続き、責任者級役員(事前準備責任者および当日チーフ役員)の手当についても、日当に追加する形で予算に組み込んだ。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

**▽参加費の決定**

以上の支出項目を整理しつつ、参加者数を想定し、収入項目のほとんどを占める参加費を決定した。

本大会では、昨年度の全日本でテレインに入った人が多いことに加え、スケジュール的に参加者が見込めない、採算が合わないことを理由にモデルイベントをなくしたため、スプリント参加者数は昨年度よりも減少すると想定した。

参加費は、近年増額傾向にあったが、本大会では、オフィシャル参加費を除き、昨年度と同額に据え置いた。オフィシャル参加費のみ 1000 円の増額としたが、本大会で新たに企画されたエキシビジョンレース参加費分を上乗せしたことが増額の要因である。

**▼4.5.3 決算結果について****▽全体概要・総評**

3.4.1 にも示す通り、予算時点で見込んでいた利益よりもプラスで決算を締めることとなった。予算から乖離した収支項目が多いのは、収入を抑えめに見積もっていたことと、収入が概ね固まってから見直した支出項目があることが主な要因である。

**▽収入詳細**

昨年度に引き続き、スプリントで一般クラスを設置した。モデルイベントをなくしたことにより、スプリント一般クラス参加者数が減少することが懸念されたが、蓋を開けてみれば、昨年度並みの参加者数だったため、予算に対し、大幅な収入増加となった。

一方で、併設大会参加者数は伸び悩んだ。要因としては、他大会会場での告知を行わなかった、SNS での告知が遅れたなど、事前の広報不足が考えられる。

広告収入と雑収入も予算に対して増加しているが、雑収入については、予算には計上していなかった花束販売と株式会社日本旅行様からの協賛が増加要因となった。

**▽支出詳細**

予算に対し、支出も増額となっているが、その主な要因として、渉外上の都合でスプリント競技エリアが当初想定より縮小し、2 マップ制にしたことで印刷枚数が増えた地図印刷費や、事前に増額を検討していたが予算には計上していなかった役員運営費、そして、仮設トイレ手配や花束仕入れ、運営者グッズなどのその他経費の増額が挙げられる。花束仕入れについてはすべて販売したため、収支に影響はなく、運営者グッズについては会計に余裕があったことから昨年度に引き続き計上し、運営者の負担軽減を図った。

予算より減額となった主な項目は地図作製費と交通宿泊費である。それぞれ、競技エリア縮小に伴い調査範囲も縮小したこと、スケジュールの都合上宿泊を伴わない試走があったり、事前準備参加者が想定よりも少なかったりしたことが主な変動要因である。

**▼4.5.4 今後のインカレにおける会計について****▽業務外注依頼前にやっておくべきこと**

近年、地図作製業務や渉外業務に加え、運営業務の外注により業務効率化を図っているが、あらかじめ見積もりを取るのはもちろんのこと、受託者に係る役員運営費や経費の扱いについては、事前によく話し合い、双方の合意形成を図ることが重要である。また、話し合いの記録を双方が確認できる形で残すことを強く推奨する。業務委託の内容によっては、契約書を取り交わすことも有効である。更に、契約後に新たに合意する事項が発生した際は、覚書を取り交わして書面で残しておくとなおよい。

**▽会計状況の管理**

ここ最近の大会では見直されつつあるが、本大会においても、下記のような工夫を行いつつ、定期的な会計状況の管理に努めた。

- ・ 立替費用請求期間を費用発生から原則 2 週間以内とする旨を会計方針に規定
- ・ 高額になると予想される費用項目は事前に概算金額の確認

定期的な会計状況の管理は、会計的に大会を成功させるためにも必要不可欠であると考えしており、是非今後のインカレでも継続していただきたい。

### ▽利益の取り扱い

収支±0 で予算案を策定したとしても、様々な要素により決算が予算から乖離することは往々にしてある。その結果、利益が発生することもあるが、その取り扱いには十分に注意すべきである。

主管であるインカレ実行委員会は日本学連理事会のもとで組織される(日本学生オリエンテーリング選手権実施規則第 30 条)。また、運営に係る経費は主催者(=日本学連)が支出する(同 32 条)とあるものの、利益については規定がないため、利益は日本学連に還元するのが基本的な考え方である。

ただ、インカレの実施体制により、日本学連以外への分配もあり得るが、その場合は、事前に関係者間で合意形成を図り、日本学連に承認を得る必要があると考える。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

## 5

## イベント・アドバイザー報告

## 5.1 はじめに

日本学生オリエンテーリング選手権実施規則（以下、「インカレ実施規則」）34条に基づき業務を遂行した。本大会における業務報告、及びイベント・アドバイザーの視点から本大会で見受けられた課題の詳細と今後の提言を以下で述べる。

また、インカレ実施規則 35.2 項で規定の「幹事会、理事会及び技術委員会への活動報告」は本内容をもって代えさせていただく。

## 5.2 業務実施報告

## ▼5.2.1 要項の内容確認

- 全ての要項及び発行物の公開前に、その内容がインカレ実施規則に準じている事と適正である事を確認した。
- また、インカレ実施規則を不適用とする事項について、実行委員会内での判断を確認し、技術委員への諮問及び理事会への申請を行った（5.3.6 項に関連事項）。

## ▼5.2.2 会場・トレインの適格性確認

- EA に任命された時点で既に両競技部門ともトレインは決定しており、当該トレインを利用して競技を行うことを前提として適格性の判断を行った（5.3.6 項に関連事項）。
- 両競技部門において、会場の広さ・立地条件・設備については現地視察により適切であることを確認した。
- スプリント競技部門
  - ◇ 本大会が初利用のトレインであることから、渉外担当者の現地状況や制約等の報告や、航空写真などの Web サービスを利用した机上検討、及び現地視察により都度適格性を確認した。
  - ◇ 利用エリアの制限が多く、一部地図表記が複雑になり得る箇所も存在したが、コース回し等の工夫により選手権者を定めるコースを提供できるレベルであることを関係者と共に確認した。
- ロング・ディスタンス競技部門
  - ◇ 昨年度全日本大会が開催されていたこともあり、経年変化・安全面等を注意深く反映すれば、競技利用でのトレインの適格性は十分であると判断した。

## ▼5.2.3 スケジュール全体の確認

- 参加者の動きとしては、一部移動時間や待ち時間が長い箇所も存在したが、全体を通して適切なスケジュールであることを確認した。
- 運営の当日の動きについては、議論を重ねた上で適切であることを判断したが、結果的に一部タイミングにおいて時間的な制約が厳しい箇所が存在した。スプリント競技部門では、参加者の移動や運営業務の切り替えが発生する一般の部から選手権の部に移るタイミング、ロング・ディスタンス競技部門では、競技関係の最終チェックが行われる開場以前から一般の部競技開始までのタイミングがこれにあたる。無理の無い行動計画を念頭にスケジュールが適切かを確認することが必要であった。

## ▼5.2.4 スタート・フィニッシュ・チェンジオーバーのシステムとレイアウト確認

- 両競技部門とも、競技責任者及び各地区のパート責任者と共に現地にて問題が無いことを確認した。

### ▼5.2.5 計時システムの信頼性と正確性の判断

- スプリント競技
  - ◇ SportIdent 社製のタッチフリー方式が可能な計時システムを採用した。これは、競技の性質を踏まえ、0.1 秒単位での計時が可能である点、競技者が接近方向に依らずパンチングを行うことが可能である点を考慮した判断である。
  - ◇ また、0.1 秒単位が担保するために、パンチングスタートによるスタート方式、ループアンテナを用いたフィニッシュライン通過によるフィニッシュ方式を採用した。
- スプリント競技一般の部及びロング・ディスタンス競技
  - ◇ EMIT 社製の電子パンチングシステム（Electronic Punching and Timing System）を採用した。こちらは過去の大会実績から適切であると判断した。

### ▼5.2.6 地図が規定に合致しているかの確認、及び地図の正確さ、作図、印刷の妥当性確認

- 両競技部門とも、競技責任者・コース設定者と共に現地及び机上での検証を経て、各地図図式規定に適合していること、判読性について問題がないことを確認し、競技用地図として適切な水準の地図であることを確認した。しかし、スプリント競技部門においては結果的に地図の判読性が不十分であることが浮き彫りになり、提訴を招く事態に至ったことは反省するべき点であった（5.3.1 項に関連事項）。
- 印刷後の地図については、競技地図の全数確認により、印刷のかすれや滲み、色の不調、誤記が無いことを確認した。

### ▼5.2.7 コースの適格性確認

- 両競技部門とも、現地での試走会と競技者のレベルを考慮し適切であると判断した。
- スプリント競技部門
  - ◇ コース設定者・競技責任者の見解を踏まえ、高速走行下の競技者に常にルート選択の判断を求めるコース設定になっていることを確認した。
  - ◇ 難易度については、このコンセプトのもと構造の複雑性があるスタンド及び臨時設置柵を用いたコース設定を進められてきたが、結果的に関連するレグにおいて地図の判読性及び現地の視認性が低下してしまった。これにより、一部レグで適切でない大きな出戻りの誘発や、競技中誘導箇所での提訴が発生する事態となったのは反省するべき点であった（5.3.1 項に関連事項）。
  - ◇ 安全管理については、近年、立入禁止区域への侵入による失格者が多数発生していることを考慮し、コース設定時から不用意に立入禁止区域に侵入しないルート取りになるように検討されていることを確認した。また、全コントロールにコントロールガード、危険箇所・立入禁止区域付近に監視員を配置することを確認し、特に問題は生じなかった。
  - ◇ コースの長さについては、試走会の結果と過去大会の優勝者タイムと距離・トレイン特性による机上検討から設定したが、概ね狙い通りの結果となった。
- ロング・ディスタンス競技部門
  - ◇ コース設定者・競技責任者の見解を踏まえ、競技者のタフネスさとルート選択能力を問うコース設定になっていることを確認した。
  - ◇ 難易度については、ロング・ディスタンス競技部門らしいロングレックの設定が現地・机上検討で十分に練られていること、比較的分かり易いコントロール位置であることを確認した。
  - ◇ 安全管理については、危険箇所を回避したコース設定となっていること、道路横断箇所の対策が施されていることを確認した。
  - ◇ コースの長さについては、試走会の結果と過去大会の優勝者の走行速度・トレイン特性に

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

よる机上検討から設定したが、結果的に女子選手権で優勝設定時間を下回ってしまった。人的リソース不足により女子選手権コースの試走に女子選手を起用できず、推定による設定となってしまったことが一因であろう。

#### ▼5.2.8 コントロール位置説明が適切かどうかの確認

- 現地の確認及び試走担当者の報告から、全ての競技用地図について適切なコントロール位置説明が使用されていることを確認した。また、配布用のコントロール位置説明についても競技用地図と合致しているかを確認した。

#### ▼5.2.9 式典が適切かの判断

- 式典の準備及び当日の進行について確認した。調査依頼及び提訴の影響を受け、両競技部門とも要項記載の予定が崩れ、参加者の皆様に待ち時間が生じてしまいご迷惑をお掛けしてしまった。時間制約が多い中で、調査依頼及び提訴の影響で入賞者の確定が遅延してしまうことはある程度やむを得ない事象であるが、混乱を生じさせないためにも計画変更の判断基準やタイミングなども明確にした式典の段取りを事前に構築しておくことが望ましいと考える。

#### ▼5.2.10 報道関係者、観客に対する処遇

- 観客に対しては、両競技部門において会場内に観戦エリアを設けその中に限定して観戦を行ってもらうことを確認した。会場内に限定したのは、競技公平性の確保と安全を考慮しての判断である。
- 報道関係者は、ロング・ディスタンス競技部門のみ UNIVAS の撮影取材にお越し頂き、撮影エリアの提供、競技の事前説明の対応を行ったことを確認した。一部撮影エリア・方法について確認や担当者への伝達の点で不備があり、ご不便をお掛けした部分があった。

#### ▼5.2.11 運営組織、人事、会計及び競技運営全般の確認

- 実行委員会の組織体制や業務進捗について都度確認した。運営パートは概ね従来の運営体制を踏襲したものであり、一部人員が兼務をすることで負荷が集中する場面もあったが、全体として十分機能していたと考える。
- 競技パートも従来の運営体制を踏襲したものであったが、大会直前期の工数が増大し、人的リソースが不足している状況が続いた（5.3.4 項に関連事項）。運営体制については、過去の形態に囚われず、運営進行や人員の状況を考慮し構築していくことが望ましい。
- 会計についても予算案策定から締めまで一連の会計業務について都度状況を確認した（5.3.4 項に関連事項）。

## 5.3 本大会において見られた課題

### ▼5.3.1 地図の判読性と現地の視認性（スプリント競技部門）

- 3.3 項で述べられている通り、スプリント競技の競技中誘導箇所において地図の判読性及び現地での視認性の低下が要因となり調査依頼及び提訴が発生した。結果的に入賞圏内の選手を含む選手関係者に多大なるご迷惑をおかけしたことを改めて深くお詫び申し上げる。
- 同項で講じられている対策も踏まえ、イベント・アドバイザーの視点から今後の対策として以下内容を提言する。

#### ① スプリント競技における誘導区間の設定

- ✧ 国内外の事例を見てもスプリント競技中に誘導区間を設ける事例は多いとは言えない。これは高速走行下の競技者に対して常にルート選択を求めるというスプリント競技の特性上、誘導を辿らせること自体が競技の本質からはかけ離れていることが理由として考えられる。

- ◇ 本大会の事例も踏まえて、スプリント競技においては、道路横断や立入禁止地区の迂回などトレインの制約上やむを得ない場合を除き、競技者の混乱を招くような誘導区間を設けないことが望ましいと考える。
- ◇ 仮に、誘導区間を設定する必要が出てきた場合でも、そのルートを通ることが最善であるように必ず設定すべきである。本大会の事例では、誘導区間を辿らず迂回した方が速いという設定になっており、その点が裁定委員会の際も争点に挙がった。

## ② テレイン及びテレイン内特徴物のコース設定上の適格性検討

- ◇ 5.2.7 項で述べたように、今回誘導区間を設けた箇所は、現地の視認性及び地図の判読性が低下していたと言わざるを得ない。誘導区間と臨時柵という新たに設けた特徴物の混在していたこと、たださえ複雑に見えるスタンドエリアと誘導区間の表記を重ねてしまったことが主な要因であると考えられる。
- ◇ 競技パート関係者は、利用する特徴物及び関連するレグが、スプリント競技のコンセプトと照らし合わせた際の適切であるか、過去の事例も参考にしながら十分に判断ができるよう心掛けるべきである。特に新たに導入する特徴物については、実際設置し試走などの現地確認により十分吟味されるべきである。
- ◇ また、この判断に至った経緯には、本テレインにおけるコース設定の難しさがあったと考えられる。本テレインは使用可能エリア自体が非常に狭く、更に一般来園者との共存も考慮し多くの制約を有していた。そのため、数少ない特徴物の利用や臨時柵の導入に拘ってしまった部分があり、同時に多くのリスクも生んでしまったように思われる。
- ◇ このような事態を避けるためにも、開催地選定時にはテレインの適格性自体についても十分な議論がなされているべきである。今後は、開催地選定時にスプリント競技に精通した有識者を含んで議論できる体制を作り上げるべきである。

## ③ 競技者目線でのコース設定とフィードバック機構

- ◇ 3.3 項でも述べられている通り、今回のコース設定及び現地の資材配置には、競技者の目線に立った検討が不足していた部分があった。
- ◇ 一方で、この目線は当事者として意識はしているつもりでも、地図や現地を何度も見るにつれどうしても慣れが発生してしまい疎かになってしまう。
- ◇ そのため、コース設定の大詰めタイミングなどで、スプリント競技に精通した初見の運営者に試走や地図表記の確認を実施してもらい、フィードバックが得られる機構を設けることが望ましいと考える。この際、可能な限りテレイン内に配置する資材等も同様の物を用い確認してもらうことが望ましい。

### ▼5.3.2 コントロール設置ミスによる対応（ロング・ディスタンス競技部門）

- 3.3 項で述べられている通り、ロング・ディスタンス競技男子選手権の部の 18 番コントロールにおいて設置ミスがあり、調査依頼及び提訴、更に裁定に基づく正式記録の修正が行われた。結果的に入賞圏内の選手を含む選手関係者に多大なるご迷惑をおかけしたことを改めて深くお詫び申し上げます。
- 原因分析及び対策については 3.3 項で既に講じられている通りであるが、イベント・アドバイザーの視点からも以下内容を提言する。

#### ① コントロール設置手順の管理

- ◇ 3.3 項で述べられている通り、本大会を振り返ってみると、コントロール設置と確認に関して設置ミスが発生し得る計画・行動上の抜け漏れがいくつか存在した。これは、行動計画自体とその管理体制に不備があったためである。
- ◇ この課題に関して、今後の運営では以下項目を意識いただき、再発防止に努めていただき

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

たい。

### ① コントロール設置と確認作業の行動計画作成

◇ 抜け漏れを無くすべく入念に行動計画を練ることがまず重要である。工程表を作成するなど、誰が・いつ・どこをなどの形で整理するのも手であろう。場所・時間的に分かれ複雑化しがちな設置計画の工程を見える化し整理することで、抜け漏れの発生を抑えられることが期待できる。

### ② 行動計画におけるリスクの抽出

◇ 上記行動計画は作っただけでは不十分である。関係者内でリスクの抽出も実施すると良い。各コントロールの確認が十分に行えるか、難易度に応じた人選はされているか、時間的余裕はあるかなど、設置ミスにつながり得る懸念を多くの人の目に触れる形で抽出してもらうことで、リスクの潰し込みを行うことが期待できる。

### ③ 競技者視点での確認機能

◇ 設置者・確認者と競技者ではスピードやアタックの方法などでまた目線が異なる。そのため、設置者や確認者が大丈夫だと思っても、競技者の目線に立つと違和感を覚えるケースは少なくはない。可能な範囲で試走や前走の際の競技者目線による確認を利用し、より確度を高められるようにできることが望ましい。

◇ いずれも工数のかかることではあるが、競技の根幹に関わるため検討いただきたい。

◇ 設置ミスは、計画者・設置者の技量、場所・時間的な状況、更には偶然も重なることで不意に発生し得るものであることを再認識した上で、決して過信せずリスクの潰し込みを含めた入念な事前計画の策定に注力いただきたい。

### ② 競技パートの構成再検討

◇ 5.2.11、3.4.1 項で詳細を述べるが、競技パート負担が増大していたことが本事例の遠因であると考えられる。過去の形態に囚われず、負荷状況に応じた体制を整えることが望ましい。

### ③ 発生時の対応

◇ 本大会では調査依頼の結果、17番コントロールまでの積算タイムを正式記録とする修正措置をとった。これは、18番以降については競技者の心理状況を考慮し公平性を担保できないと考えたこと、18番コントロールが終盤でありロング・ディスタンス競技としてはここまでの区間で何とか成立できると考えたことを踏まえての判断であった。

◇ この議論については本大会の状況を鑑みたものであり、違うシチュエーションでは成り立たない可能性もある。同様の事例を発生させないことが絶対であるが、仮に発生した際は今回の対処方法を前例と捉えず、その都度状況に応じた議論を実施いただきたい。

#### ▼5.3.3 渉外活動上のリスク管理と共有（ロング・ディスタンス競技部門）

➤ ロング・ディスタンス競技において、要項3に記載の一般の部スタート地区誘導の動線が一部通行不可であることが開催前日に発覚し、選手権の部も含めた動線を再構築せざるを得ない状況になった。これにより、参加者の皆様にも当日混乱を生じさせてしまったことは反省すべき点である。

➤ この事態は利用範囲において事前の渉外活動が不十分であったことが主な要因であったと考える。上記は表面に現れた一例であるが、渉外活動や宿泊施設との交渉において情報共有が不十分であったことによる運営内での手戻りもいくつか生じていた。

➤ このような事態が発生しないためにも、事前準備の段階で、渉外先への交渉すべき事項が発生

した場合、先方へ内容が十分に伝達できているか、運営組織内での情報共有ができているか、ということを確認すべきである。また、リスク管理として交渉すべき事項に抜け漏れがないか、渉外担当者と連携を取りながら確認することも重要である。

#### ▼5.3.4 運営体制、会計状況について

##### ➤ 競技パートの構成

- ◇ 5.3. 1, 2 項で述べた競技面の課題を生んだ要因として競技パートに関わる人員構成と役割分担が挙げられる。本大会では、競技責任者が主となり、副競技責任者、コース設定者の3名で実質構成されており、適時イベント・アドバイザーが補完する形をとっていた。また、競技責任者、副競技責任者、イベント・アドバイザーについては両競技部門共通であった。
- ◇ 競技に関する全ての業務がある中で、本大会の人員構成では結果的に一人当たりの負担が多く、大会当日も含め時間的・精神的に余裕の無い状況を作り出してしまったと思われる。このような構成は本大会に限らず、過去の多くの大会においても見受けられる。
- ◇ 人員の許す限り、競技パートも運営パートと同様に業務を機能ごとに分担し責任者・実務担当者を付けることが望ましい。納品前後の地図の確認、誘導・給水・監視などの人員配置、コントロールの設置・撤収の計画・指揮などの業務に関しては分離することは可能であるとする。

##### ➤ 会計報告に対して

- ◇ 4.5 項で述べられている通り、本大会の会計は適正な状況であったと考える。
- ◇ 近年を振り返ると、一時期課題であった秋インカレの会計体制も十分適正な方向へ向かってきている。業務委託契約の締結や予算管理など会計コントロールの努力や、収益改善の工夫が成果として表れると感じる。
- ◇ また、責任者や当日運営者への日当などの仕組みも組み込まれており、無償の奉仕のイメージが強かった過去のインカレ運営体制の改善に一石を投じることができたと考える。
- ◇ これらノウハウについては今後も継承できるように、資料化して共有できる状態しておくことが望ましい。
- ◇ 一方で、依然として開催地域による収入・支出額の上下振れは大きいものがある（遠隔地開催による参加者減、運営者の宿泊交通費の増加など）。予算案策定時には、過去の事例を参照するだけでなく、変動を考慮した議論が必要である。

#### ▼5.3.5 メディアへの対応

- 本大会では UNIVAS による競技の取材が行われた。オリエンテーリングのスポーツとしての認知度向上や普及の観点で価値のあることであり、今後も外部メディアを利用した広報活動を利用することが望ましいと考える。
- 一方で、4.4.4 項で述べられている通り競技公平性を損ない得る事象も課題として見受けられた。メディア関係者に対しては、事前に競技説明や注意事項・取材環境の確認などを十分に実施できる時間を設けるべきである。その上で、可能な範囲で十分な取材環境を提供できることが望ましい。

#### ▼5.3.6 日本学連における制度やその運用について

##### ➤ イベント・アドバイザー選任時期

- ◇ イベント・アドバイザーに任命されたのは、大会開催の6ヶ月弱前であった。要項1公開以降のタイミングであり、この時点で両競技部門のトレインと運営組織等は決定している状況であった。
- ◇ イベント・アドバイザーの任命時期は、インカレ実施規則34.2項において大会開催の1年前までとされている。これにより一部業務内容（要項の内容の確認、会場・トレインの

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

適格性の確認、運営組織・人事・会計及び競技運営全般の確認など)が十分に遂行できない可能性が出てくる。本大会のみならず過去大会においても同様の事例が散見される。

- ◇ 大会全般をコントロールする業務の特性からも、開催地選定・運営組織立ち上げ時からイベント・アドバイザーが関わることは重要であると考え。任命に関わる日本学連の技術委員会及び理事会には今後改善をご検討いただきたい。

### ▶ インカレ実施規則及びガイドラインの更新

- ◇ 本大会を進めるにあたって「インカレ実施規則」及び「インカレスプリント実施に関するガイドライン」(以下、「スプリントガイドライン」)を原典として参照してきた。
- ◇ 今後のインカレ運営をスムーズに進めるため、適正かつ近年の実態に合致した内容に更新していくことは重要であると考え。本大会を通じて見受けられた課題から、下記三点の事項の見直しを日本学連に要求したい。
- ◇ 既に日本学連内にはインカレワーキンググループが創設されており、下記内容は既に議論されている部分もあるが、改めて記しておくものとする。

#### ① 不適用事項として近年列挙されている事項

- ◇ インカレ実施規則の不適用事項として要項 3 に毎年のように記載される項目が存在する。スプリント競技部門の計時単位や、ロング・ディスタンス競技の地図図式規定上サイズなどがこれにあたり、主に近年の競技に求められる実態と乖離して要る事項である。
- ◇ 申請業務などの手間を減らすなど運営をスムーズに行うためにも、これら事項を中心としてインカレ実施規則の更新を実施するべきである。
- ◇ 同時に、定期的に見直しをするタイミングを定め、放置されないようにする枠組みも必要であると考え。

#### ② JOA 競技規則との統合

- ◇ 日本学連は現在 JOA の傘下にあるが、JOA 競技規則とは別にインカレ実施規則が存在する。これはインカレ特有の決め事について規定するためであると考えられるが、重複する項目や、①で挙げたように更新が追いついていない項目が存在する。
- ◇ 複数の規約を参照することや、それぞれ規約での解釈を考えることは運営上無駄な工数である。
- ◇ 学連として JOA 競技規則とインカレ実施規則の立ち位置を明確にさせ、必要に応じて統合するなどの処置をとることが望ましいと考える。

#### ③ スプリントガイドラインの見直し

- ◇ インカレスプリント立ち上げの際に制定されたスプリントガイドラインであるが、0、13 項にあるように、第 1 回開催から既に 5 年が経過し見直しの時期になっている。実際、インカレスプリント開催における要件はこの 5 年の間で大きく変化してきたと実感している。
- ◇ 特に予算については、資料中では上限額として設定されているが、近年の要求仕様に耐え得る作図などの実工数を考慮するとこの枠組みを超える可能性がある。本大会でもスプリント競技の地図作製費用について予算案策定時と会計締めの際に地図作製委託業者と議論を行った。
- ◇ その他項目の内容も含め、近年インカレスプリントの運営に携わった関係者からのヒアリングなどを実施し、スプリントガイドラインの更新等を検討いただきたい。

### ▼5.3.7 加盟員、チームオフィシャルへのお願い

- ▶ 今後のインカレ運営をスムーズに進める観点から、加盟員およびチームオフィシャルに対して

も下記二点をお願いしたい。

① 要項、テクニカルミーティングへの問い合わせについて

◇ 既に公開された資料に記載のある、規則として定義されている内容等についての問い合わせが少なくないのが現状である。運営負担軽減のためにも、問い合わせの事前に関係する資料を十分に確認いただくことをお願いしたい。

② 調査依頼、提訴の文面について

◇ 調査依頼の請求内容や提訴の主張が文面から読み取れる範囲で明確でないことがあり、実行委員会での調査依頼の回答や裁定委員会での議論・裁定結果の回答に悩む場合がある。運営負担軽減も狙いにあるが、何よりも論点を明確して議論を深めることができるため、何を請求・主張したいかが伝わることを念頭に文章作成を実施いただきたい。

## 5.4 終わりに

両競技部門において競技成立に関する事項で提訴が発生してしまったことは、イベント・アドバイザーとしてのコントロール機能が不十分であったことに他ならず痛恨の極みである。関係者各位には改めてお詫び申し上げます。今後インカレ運営に携わる方々には、本大会の事例を教訓に変えて競技及びイベント運営の成立に向けて注力いただきたいと思います。

一方で、事前準備期間の進行については、各責任者主導のもと適切に進められてきたと業務を通じて確認している。特に会計面については昨年に引き続き適正なレベルであった。過去多くの課題を抱えてきた秋インカレであるが、演出面など新しい試みも含め、近年着実に運営ノウハウが引き継がれていると感じる。

時流の変化に伴いインカレは年々進化し続けている。過去大会の良い部分も悪い部分も今後の糧にいただき、関わる者皆が熱くなれるインカレがこれからも継続して開催されることを期待する。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

## 6 将来への提言

### 6.1 スプリント競技部門

運営責任者 遠藤 匠真

#### ▼スプリント競技の観戦形態

本大会では陸上競技場のフィールドをフルに活用し、コースに組み込んだ。元は制約の多いトレインでコースの幅を広げるための策であったが、副次的に新たな観戦の形態を提示することができた。図らずも競技エリア全域を観戦エリアとした 2018 年駒ヶ根インカレと対極のスタイルになったが、インカレ特有の応援の盛り上がりや演出情報の提供といった点での優位性は出ていたと考える。トレイン制約の多い中では観戦形態も大会毎に変化しうるが、今後大会を重ねるごとに様々な観戦パターンが提案されることが期待される。

#### ▼競技中の誘導区間

本大会では誘導区間における失格が多発した。そもそも誘導区間はスプリント競技の性質と馴染みにくいものであり、特段の必要性がある場合を除いては設けないことが望ましい。また、仮に誘導区間を設けるとしてもベストルートと著しく乖離することは避けるべきである。加えて、誘導区間の視認性の観点からすると誘導区間は両側にテープを有するレーンにするべきと考える。また、立入禁止区画と誘導区間を混在させることも極力避けるべきである。

#### ▼チェック機能

地図、コース、資材設置の策定段階から携わった役員のみでは、真の意味での選手目線のチェックは困難である。初見の役員によるチェックを予めタスクに盛り込んでおくことも必要と考える。

### 6.2 ロング・ディスタンス競技部門

運営責任者 遠藤 匠真

#### ▼コントロール設置

コントロール設置と確認には十分な人員を割くことが必要であり。可能な限り前週の段階で、コントロール位置を把握した人員が確認を行うことが望ましい。また、コントロール設置に関しては工程表を設ける等、状況の許す限り工数をかけて管理体制を強化する必要がある。

#### ▼設置ミスへの対応

本大会で最終的に確定した 17 番コントロールまでのタイムを削除する措置は、本大会の状況において成立するという判断の上に採用されたものであり、将来にわたって判例として用いることを想定したものではない。再発防止策をとることを大前提に、万一発生した場合にも都度状況に応じた対応が必要である。

### 6.3 運営組織、人事、会計及び運営全般

運営責任者 遠藤 匠真

#### ▼業務委託契約

本大会で業者と締結した契約は、業務分担の明確化やコストの可視化といった観点で非常に強力なツールであり、今後も継続して締結していくことが望ましい。ただし契約書面は未だ改善の余地が見られるため、各大会の状況に応じて今後もブラッシュアップされる必要があると考える。

#### ▼情報伝達・集積

実行委員会内での連絡手段がメーリングリストからチャットツールへ移行している昨今、意識的に決定事項を集約する機会・ツールを設けないと情報が流れ去っていきがちであり、重大な見落としのリスクもある。情報の取り扱いには運営の序盤から注意されたい。

#### ▼渉外業務の進捗管理

渉外を業者に一任する大会では、実行委員会の役員が現地を訪れることが減り、進捗管理が滞り

がちになる。渉外の実務自体は委託するにしても、進捗を実行委員会側で掌握することは不可欠であり、専任の担当者を配置するなど人事面でも優先度を高める必要がある。

#### ▼競技パートの人員強化

スプリント競技部門に要求される品質は年々向上しており、過去のインカレや春インカレと比較しても競技パートの運営負荷が極めて増大している。従来の人事配置をただ踏襲するのではなく、近年の状況を鑑みたくて手厚く配置されるべきである。例えば現状競技責任者が監督している地図確認、コントロール設置撤収計画、誘導給水等のトレイン内人員配置は別途担当者をあてがうことが可能かつ望ましいと考える。

#### ▼UNIVAS CUPの動画製作

UNIVAS CUPが継続される以上、今回のような形態で撮影が実施されることが予想される。他の競技種目と異なり、オリエンテーリングでは撮影者、運営者、選手の三者とも撮影ノウハウに乏しい。今後とも新たな撮影スタイルを試みる度に予期せぬトラブルが生じることが予想されるが、撮影者と運営者がトラブルの種を極力潰しきると同時に、選手側が撮影の状況を事前に想定できるようなアナウンスを行うことも必要と考える。

### 6.4 日本学連（理事会・技術委員会・幹事会）に向けた提言 運営責任者 遠藤 匠真

#### ▼開催地偏在の弊害

インカレ開催地が特定の地区に偏ることは、人的資源の観点での持続可能性に欠ける。今回は関西・東海地区ゆえにその傾向が顕著に表れたが、関東に偏ったとしても根本は変わらない。できるだけ多様な地区で開催を実現するためにはインカレを受け入れていただけるだけの土壌を各地で形成しておく必要がある。この構造的課題には学連幹事会で長期的に取り組んでいただきたい。

#### ▼実行委員会立ち上げ期の人員招集

一般に組織の立ち上げ遅延によるしわ寄せは後工程に波及し、結果として直前期の非効率作業やミスも増える。理事会や技術委員会での役割分担を見直し、大会1年前を目安に役員の目途が立つよう主体的な行動を願いたい。

#### ▼インカレ実施規則とスプリント競技部門ガイドライン

既にインカレワーキンググループによってある程度改善の兆しはあるが、インカレ実施規則とガイドラインの更新が急務となっている。特にスプリントガイドラインは5年間の実績に対して相当乖離した部分も散見されることから、ガイドラインとしての意味をなさなくなるのも時間の問題と考える。関係者からのヒアリングを実施し、早急に改善に取り組んでいただきたい。

#### ▼インカレ実施規則とJOA競技規則の位置関係

インカレ実施規則は上述のように改訂が求められるほか、JOA競技規則に対して並行している立ち位置自体にも見直しの余地がある。特にJOA競技規則と重複している項目や、JOA競技規則に対して改訂が追いついていない箇所などの存在は運営工数の不必要な増大に直結する。インカレ実施規則自体の必要性を否定するものではないが、敢えて並行した規則を設ける以上は学連技術委員会ですら十分に管理可能な体制を模索していただくようお願いしたい。

### 6.5 加盟校に向けた提言、お願い 運営責任者 遠藤 匠真

#### ▼競技マナー教育

改善の傾向はあるものの、立入禁止区域への侵入等の違反事例が絶えない。トレインによっては安全にも直結する事項であることから、各校において引き続き新人の教育を徹底するとともに、上級生も高い意識を維持してスプリント競技に取り組んでいただきたい。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

## ▼参加費

秋インカレの会計状況は近年の課題となっていたが、適正な方向へ向かいつつある。しかしながら開催地やテレイン次第で運営コストが上振れするリスクは依然として大きく、この傾向はスプリント競技部門で特に強い。インカレの予算はそうしたコスト変動を考慮して策定する必要があり、それが参加費に反映される可能性についても競技者には理解をいただきたい。

## ▼要項・テクニカルミーティングへの質問

要項やテクニカルミーティングへの問い合わせの中には、既に資料内に記載されていたり規則として定義されている内容が含まれているケースが多々ある。実行委員会としてはいずれの質問対応にも誠意を以て対応するが、開催直前期のタスクとしては極めて負担が大きい。質問を投稿する前に入念に確認いただくようお願いしたい。

## ▼調査依頼・提訴の文面

本大会で提出された調査依頼や提訴の文面中には、修飾的文言が多く、肝心の主述関係や主張が抽出しにくいものが多々あった。提出期限まで余裕のない中での作成など事情はあると考えるが、主張自体が明確でなければ実行委員会や裁定委員会での議論が困難である。本大会に限らず、調査依頼や提訴の際には簡潔明瞭な文章作成を心掛けていただきたい。

## 6.6 ガイドライン・仕組み等の制定、再構築が必要な時期 大会実行委員長 椎名 麻美

今までインカレが続いてこられたのは、一部の熱意ある運営関係者の努力の上で成り立ってきたものです。しかし、一部の人に頼る、属人的な運営は継続性に欠けており、今後はいかにして継続できる体制へ整えていくか考えて行く必要があると思います。

整えていく必要があるものとして以下の項目が考えられます。

- ・テレイン選定段階から、より選択肢に幅のある仕組みづくりを行うこと
- ・インカレ実行委員会・イベント・アドバイザーを当該インカレの1年前までに結成、決定するための仕組みの再構築
- ・インカレの競技面に関するガイドラインまたはマニュアル等の見直し  
（“日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門 実施に関するガイドライン”も見直しの時期）
- ・設置の不備の可能性を少しでも減らすための設置からポ確までの具体的な手順・手法など、インカレ競技の安定的な成立に寄与する基準の制定  
→テレインなどの制約によって基準を満たせない可能性もあるが、どのくらいリスクを冒しているか把握する助けとなり、リスクを軽減する対応策を検討することができると考えられる。
- ・引継ぎ資料の内容を必ず引き継げる仕組みの構築

インカレの主催者は日本学生オリエンテーリング連盟(日本学連)になります。そのため、日本学連は大会ごとに結成される実行委員会をある程度コントロールすることになっており、イベント・アドバイザー業務がそれにあたります。

日本学生オリエンテーリング選手権実施規則(インカレ実施規則)では、“34.1 イベント・アドバイザーは、日本学連を公式に代表し、主管者に対して派遣される。 34.2 イベント・アドバイザーは、技術委員会の助言のもとに、技術委員会の委員の中から理事会が指名する。指名は、当該インカレの1年前までに行われる。”と

記載がありながらも、本大会では、大会まで約5か月前の2019年5月下旬まで決定されておらず、実行委員会より理事会に提案し、承認をいただく形となりました。

よって現在、上記のインカレ実施規則のシステムはほぼ機能していません。

技術委員会も理事会も、実際には数名しか活動なさっておらず、その数名にインカレに関する仕事もその他の仕事も、全ての仕事がかかっている状況です。

また大会まで約半年を切りあまり時間がない中、実行委員会では複数人にイベント・アドバイザーの打診を行いました。最終的には一人しか見つけることができませんでした。そのため、日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門 実施に関するガイドラインに記載の“インカレロングとの兼任をしないことが望ましい”を満たすことができず、一人のイベント・アドバイザーの方にかなり負荷がかかってしまいました。

以上のような不安定な状態の中でインカレは行われており、現状、日本学連もインカレをコントロールすることができない状態になってしまっているかと思えます。今までは、何とか成り立っていましたが、今、現状に合わせた仕組みの再構築が必要な時期になってきたのではないかと思います。

このような状態がこのまま続けば、負荷の増大→運営することを避ける、責任者になるのを避ける→人員不足→負荷の増大の悪循環により、いつかは開催もできなくなる可能性もあるのではないかと思います。

その際、一番に影響が出てしまうのは、インカレに参加する学生のみなさんになってしまいます。そのため、主体的に進めていけるのは日本学連になるのではないかと思います。ガイドラインや実施規則等は、制定しただけで終わりではなく、その時々に合わせて追記や見直しなどの管理が、制定後も必要だと考えています。

特に、スプリントは今回で第五回目を迎えました。運営が難しいスプリント競技ですが、今年も含め、徐々に今までの様々な事例が蓄積されてきております。それらを一度整理し、今後に活用できる状態にする時期になったのではないかと思います。

“日本学生オリエンテーリング選手権大会スプリント競技部門 実施に関するガイドライン”にも平成 32 年頃が見直しの時期と記載があります。

## 6.7 人員不足への対応策について

大会実行委員長 椎名 麻美

本大会では、責任者・パート責任者、当日役員に日当(昼食代)を増額しました。

元々、東海・関西地区にいる OB/OG は関東地区と比較しても少なく、広い範囲に点在しているため、運営が比較的難しい地域ではあるのに加え、2016 春, 2017 秋, 2018 秋, 2018 春と、過去に比べてここ数年で中部・関西地区において、インカレ開催の頻度が高くなっております。そのため、何年間も同じ役員が責任者として運営に参加せざるを得ない状況が起こっております。このような状況においては、ある程度の手当は今後のインカレの継続的な開催のためにカギを握る一つの点になるかと思えます。

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザー報告

将来への提言

選手権の部スタートリスト

大会役員一覧

## 7

## 選手権の部スタートリスト

## 7.1 スプリント競技部門

(\*印はシード選手です)

ME [1/2]				参加人数 64
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年	
111	13:40	菅尾 澄人	大阪大学 2	
112	13:41	住吉 将英	名古屋大学 3	
113	13:42	名雪 青葉	筑波大学 2	
114	13:43	棚橋 一樹	名古屋大学 3	
115	13:44	太田 知也	京都大学 3	
116	13:45	保刈 優	東北大学 3	
117	13:46	伊藤 元春	東京大学 2	
118	13:47	江野 弘太郎	慶應義塾大学 3	
119	13:48	前川 光鷹	東京理科大学 2	
120	13:49	石渡 望	東北大学 3	
121	13:50	谷平 光一	名古屋大学 3	
122	13:51	滝沢 壮太	新潟大学 3	
123	13:52	中嶋 律起	横浜国立大学 3	
124	13:53	西田 直人	茨城大学 2	
125	13:54	石田 晴輝	東京大学 4	
126	13:55	小寺 義伸	東京工業大学 3	
127	13:56	菅原 晨太郎	東北大学 4	
128	13:57	宮川 靖弥	東京工業大学 2	
129	13:58	阿部 遼太郎	横浜市立大学 2	
130	13:59	祖父江 有祐	筑波大学 1	
131	14:00	藤井 悠輝	名古屋大学 2	
132	14:01	嶋崎 渉	東北大学 3	
133	14:02	岩垣 和也	名古屋大学 4	
134	14:03	山田 基生	東北大学 3	
135	14:04	長谷川 望	早稲田大学 4	
136	14:05	豊田 俊哉	神戸大学 2	
137	14:06	片岡 佑太	大阪大学 3	
138	14:07	大石 洋輔	早稲田大学 3	
139	14:08	園部 駿太	東北大学 3	
140	14:09	根本 啓介	筑波大学 1	
141	14:10	伊地知 淳	千葉大学 2	
142	14:11	★三浦 一将	名古屋大学 4	
143	14:12	椎名 晃丈	東京大学 3	
144	14:13	大野 絢平	京都大学 4	
145	14:14	上村 太城	慶應義塾大学 4	
146	14:15	★大橋 陽樹	東京大学 4	
147	14:16	下江 健史	広島大学 4	
148	14:17	石川 創也	名古屋大学 3	
149	14:18	小林 尚暉	東京大学 2	
150	14:19	★外石 裕太郎	新潟大学 4	
151	14:20	南 吏玖	名古屋大学 3	
152	14:21	朝間 玲羽	東京大学 2	
153	14:22	七五三 碧	茨城大学 4	
154	14:23	★長岡 凌生	東北大学 4	
155	14:24	山内 優太	広島大学 3	
156	14:25	岩井 龍之介	京都大学 4	
157	14:26	池田 匠	早稲田大学 2	
100	14:27	★桃井 陽佑	慶應義塾大学 4	
158	14:28	吉田 新史	大阪大学 3	
159	14:29	三冢本 雄貴	広島大学 3	
160	14:30	川口 真司	名古屋大学 4	
161	14:31	★小牧 弘季	筑波大学 3	
162	14:32	古池 将樹	京都大学 3	

ME スタートリストは右上に続く

ME (2/2) 左下の続き			
163	14:33	金子 哲士	東北大学 3
164	14:34	茂原 瑞基	慶應義塾大学 4
165	14:35	★北見 匠	東北大学 4
166	14:36	谷野 文史	筑波大学 3
167	14:37	青芳 龍	東北大学 4
168	14:38	倉田 瞭一	東京工業大学 2
169	14:39	★種市 雅也	東京大学 4
170	14:40	宮嶋 哲矢	千葉大学 3
171	14:41	櫻井 一樹	東京工業大学 3
172	14:42	清水 俊祐	慶應義塾大学 4
173	14:43	★川島 聖也	神戸大学 4

WE				参加人数 36
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年	
11	13:00	木本 円花	北海道大学 4	
12	13:01	諏訪 夏海	東北大学 4	
13	13:02	阿部 悠	実践女子大学 2	
14	13:03	伊東 加織	東北大学 4	
15	13:04	齋藤 百花	広島大学 4	
16	13:05	宮本 和奏	筑波大学 3	
17	13:06	世良 史佳	立教大学 3	
18	13:07	多田 明加	金沢大学 2	
19	13:08	和波 明日香	椋山女学園大学 3	
20	13:09	高橋 利奈	日本女子大学 4	
21	13:10	菊池 美結	岩手大学 2	
22	13:11	塚越 真悠子	大阪大学 4	
23	13:12	河村 優花	名古屋大学 4	
24	13:13	山賀 千尋	大阪大学 2	
25	13:14	神戸 麻衣	新潟大学 3	
26	13:15	渡邊 裕子	岩手大学 3	
27	13:16	河野 珠里亜	新潟大学 3	
28	13:17	小林 祐子	東北大学 3	
29	13:18	片岡 茅悠	東京大学 3	
30	13:19	★増澤 すず	筑波大学 4	
31	13:20	篠塚 みずき	横浜市立大学 4	
32	13:21	石坪 夕奈	東京農工大学 4	
33	13:22	進藤 緑里	岩手大学 3	
34	13:23	★青代 香菜子	東北大学 4	
35	13:24	清野 幸	横浜国立大学 3	
36	13:25	横山 由奈	東北大学 2	
37	13:26	永山 尚佳	神戸大学 2	
38	13:27	★香取 瑞穂	立教大学 3	
39	13:28	八木橋 まい	東北大学 3	
40	13:29	山根 萌加	京都大学 2	
41	13:30	小竹 佳穂	筑波大学 4	
1	13:31	★伊部 琴美	名古屋大学 3	
42	13:32	久保田 遥	東北大学 1	
43	13:33	鈴木 日菜	実践女子大学 2	
44	13:34	中野 真優	椋山女学園大学 3	
45	13:35	★出田 涼子	大阪大学 4	

## 7.2 ロング・ディスタンス競技部門

(★印はシード選手です)

ME [1/2] 参加人数 62			
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年 (My-card No.)
11	11:20	古池 将樹	京都大学 3(506234)
12	11:22	鳥居 洸太	東北大学 4(228187)
13	11:24	比企野 純一	東京大学 4(231227)
14	11:26	豊田 健登	茨城大学 3(239653)
15	11:28	宮嶋 哲矢	千葉大学 3(240111)
16	11:30	小林 尚暉	東京大学 2(244661)
17	11:32	桃井 陽佑	慶應義塾大学 4(505094)
18	11:34	大野 絢平	京都大学 4(506243)
19	11:36	朝間 玲羽	東京大学 2(244600)
20	11:38	長谷川 望	早稲田大学 4(502197)
21	11:40	森川 周	東京大学 3(196644)
22	11:42	清水 嘉人	北海道大学 2(506392)
23	11:44	伊藤 光祐	東北大学 4(228343)
24	11:46	石田 晴輝	東京大学 4(231456)
25	11:48	藤原 真吾	関東学院大学 4(505095)
26	11:50	茂原 瑞基	慶應義塾大学 4(233556)
27	11:52	川島 聖也	神戸大学 4(502182)
28	11:54	森田 夏水	早稲田大学 4(510358)
29	11:56	園部 駿太	東北大学 3(235937)
30	11:58	棚橋 一樹	名古屋大学 3(502496)
31	12:00	片岡 佑太	大阪大学 3(505105)
32	12:02	和佐田 祥太郎	京都大学 2(245603)
33	12:04	山川 登	東京大学 4(507644)
34	12:06	吉田 新史	大阪大学 3(505107)
35	12:08	伊藤 頌太	慶應義塾大学 2(507408)
36	12:10	伊藤 元春	東京大学 2(244606)
37	12:12	清水 俊祐	慶應義塾大学 4(231723)
38	12:14	津田 卓磨	横浜国立大学 3(505311)
39	12:16	三浦 一将	名古屋大学 4(232061)
40	12:18	渡辺 鷹志	慶應義塾大学 4(502762)
41	12:20	唐木 朋也	東北大学 3(236041)
42	12:22	岩垣 和也	名古屋大学 4(231643)
43	12:24	伊藤 良介	京都大学 2(507411)
44	12:26	上村 太城	慶應義塾大学 4(502751)
45	12:28	谷野 文史	筑波大学 3(505190)
46	12:30	山内 優太	広島大学 3
47	12:32	★北見 匠	東北大学 4(228245)
48	12:34	石崎 建	金沢大学 3(509886)
49	12:36	七五三 碧	茨城大学 4(502302)
50	12:38	大石 洋輔	早稲田大学 3(183067)
51	12:40	滝沢 壮太	新潟大学 3(509511)
52	12:42	★種市 雅也	東京大学 4(231191)
53	12:44	南 吏玖	名古屋大学 3(502490)
54	12:46	西下 遼介	慶應義塾大学 4(502499)
55	12:48	椎名 晃丈	東京大学 3(236023)
56	12:50	桃本 一輝	大阪大学 3(504982)
57	12:52	★小牧 弘季	筑波大学 3(507742)
58	12:54	田中 琉偉	法政大学 2(244602)
59	12:56	丸山 ゆう	京都大学 3(506242)
60	12:58	櫻井 一樹	東京工業大学 3(507480)
61	13:00	太田 知也	京都大学 3(506233)
62	13:02	★長岡 凌生	東北大学 4(228345)

ME スタートリストは右上に続く

ME (2/2) 左下の続き			
63	13:04	川口 真司	名古屋大学 4(231745)
64	13:06	祖父江 有祐	筑波大学 1
65	13:08	金子 哲士	東北大学 3(236043)
66	13:10	江野 弘太郎	慶應義塾大学 3(505266)
67	13:12	★岩井 龍之介	京都大学 4(502509)
68	13:14	菅沼 友仁	茨城大学 3(239639)
69	13:16	小池 椋介	京都大学 4(506228)
70	13:18	谷口 恵祐	東北大学 4(228188)
71	13:20	溝井 翔太	茨城大学 2(506124)
72	13:22	★大橋 陽樹	東京大学 4(231445)

WE 参加人数 33			
No.	スタート時刻	氏名	学校・学年 (My-card No.)
111	11:21	進藤 緑里	岩手大学 3(504991)
112	11:23	高橋 利奈	日本女子大学 4(502196)
113	11:25	山根 萌加	京都大学 2(507413)
114	11:27	諏訪 夏海	東北大学 4(228291)
115	11:29	清野 幸	横浜国立大学 3(505263)
116	11:31	青代 香菜子	東北大学 4(228280)
117	11:33	富永 万由	早稲田大学 3(507512)
118	11:35	渡邊 裕子	岩手大学 3(504993)
119	11:37	須本 みずほ	岡山女子大学 2(245058)
120	11:39	阿部 悠	実践女子大学 2(244709)
121	11:41	八木橋 まい	東北大学 3(236132)
122	11:43	松田 千果	横浜市立大学 3(505211)
123	11:45	★香取 瑞穂	立教大学 3(236152)
124	11:47	秋山 美伶	早稲田大学 3(507428)
125	11:49	世良 史佳	立教大学 3(236153)
126	11:51	伊東 加織	東北大学 4
100	11:53	★増澤 すず	筑波大学 4(507374)
127	11:55	永山 尚佳	神戸大学 2(507477)
128	11:57	五十嵐 羽奏	名古屋大学 2(244542)
129	11:59	小竹 佳穂	筑波大学 4
130	12:01	★伊部 琴美	名古屋大学 3(502491)
131	12:03	古谷 直央	横浜市立大学 4(501839)
132	12:05	佐藤 汐子	宮城学院女子大学 3(236143)
133	12:07	鈴木 咲希	千葉大学 4(240110)
134	12:09	★出田 涼子	大阪大学 4(502186)
135	12:11	小林 美咲	十文字学園女子大学 4(231090)
136	12:13	河村 優花	名古屋大学 4(231387)
137	12:15	和波 明日香	岡山女子大学 3(239149)
138	12:17	★小林 祐子	東北大学 3(236032)
139	12:19	岩崎 佑美	慶應義塾大学 2(507531)
140	12:21	篠塚 みずき	横浜市立大学 4(502501)
141	12:23	河野 珠里亜	新潟大学 3(509512)
142	12:25	★宮本 和奏	筑波大学 3(185368)

目次

ご挨拶

公式成績

入賞者コメント

競技結果と解説

大会運営報告

イベント・アドバイザ一報告

将来への提言

選手権の部 スタートリスト

大会役員一覧

## &lt;スプリント競技部門 各責任者&gt;

実行委員長	椎名 麻美(茨城 13)
競技責任者	近藤 恭一郎(京都 14)
運営責任者	遠藤 匠真(大阪 15)
コース設定者	松澤 俊行(東北 91)
イベント・アドバイザー	前田 悠作(名古屋 10)

## &lt;ロング・ディスタンス競技部門 各責任者&gt;

実行委員長	椎名 麻美(茨城 13)
競技責任者	近藤 恭一郎(京都 14)
運営責任者	遠藤 匠真(大阪 15)
コース設定者	戸上 直哉(東京工業 12)
イベント・アドバイザー	前田 悠作(名古屋 10)

## &lt;共通部門 各責任者&gt;

競技責任者補佐	糸井川 壮太(京都 12)
運営責任者補佐	稲吉 勇人(名古屋 13)
Web・会計・人事責任者	戸上 直哉(東京工業 12)
広報責任者	平原 誉士(京都 14)
資材責任者	花川 賢人(名古屋 15)
エントリー責任者	清川 裕樹(大阪 14)

## &lt;各チーフ&gt;

スタートパートチーフ	齋藤 真(東北 12)
誘導パートチーフ	越智 純毅(京都 14)
フィニッシュパートチーフ	坂野 翔哉(東京理科 14)
会場パートチーフ	松本 拓也(名古屋 13)
演出パートチーフ	岩瀬 史明(名古屋 14)
給水救護パートチーフ	乳井 草太(東北 12)

<地図調査・渉外>	山川 克則(東京 79)
<地図調査>	宮西 優太郎(東北 12)

以下、順不同

## &lt;その他の役員&gt;

金 和也、糸賀 翔大、蜂須賀 久晴、岩田 健太郎、内藤 一平、澤田 潤、山口 雅弘、牧 宏優、林 千尋、  
 山内 崇弘、大村 幸一郎、高水 陽介、杉浦 弘太郎、築地 孝和、野田 昌太郎、今泉 将、高水 友香、  
 松浦 知佑、細 正隆、佐藤 真悟、松岡 慧、佐藤 恵那、石井 達也、横江 薫、松澤 佳世、  
 山森 麻未、横山 結女、太田 希美、久野 桃子、青木 健悟、片桐 麻那、杉森 憲文、葛野 力、本間 実季、  
 佐々木 奈津季